

2014（平成26）年度

# N I E 実 践 報 告 書

---



**Newspaper in Education**

群馬県N I E推進協議会

2014（平成26）年度

# N I E 実 践 報 告 書

---



**Newspaper in Education**

群馬県N I E推進協議会

# Contents

ごあいさつ ……………	群馬県 NIE 推進協議会会長 森 谷 健	
多面的に社会的事象について考え、 社会的な見方や考え方を深める子どもの育成 群馬大学教育学部附属小学校 ……………		6
学びを広げ、深める新聞活用授業の充実 ～郷土のよさを見つめ、誇りをもち、地域から世界に 視野を広げる「ふるさと学習」の実践研究を通して～ 伊勢崎市立豊受小学校 ……………		10
魅力的な NIE の発信 ―新聞を活用し、生徒の多面的な 物の見方を促すことによって学びの自立を目指す― 高崎市立高松中学校 ……………		14
NIE で言語能力の向上を図り、「社会で生きて働く力」を 育む（3年計画の2年次）NIE を取り入れた二年生の キャリア教育を中心として 太田市立西中学校 ……………		20
社会の一員としての自覚を高め、多面的に物事を考えられる ようになろう 沼田市立沼田南中学校 ……………		24
新聞(情報)を活用しながら思考力・表現力の向上を図る取り組み 昭和村立昭和中学校 ……………		28
「図書委員会から発信～ NIE に取り組む」 群馬県立藤岡中央高等学校 ……………		32
新聞活用が授業を変え、生徒に意識の変化が生まれた NIE 群馬県立西邑楽高等学校 ……………		36
「NIE 活動を通じたメディア・リテラシーの育成」 群馬県立館林商工高等学校 ……………		40
事実を正確に知り、経緯や背景を理解し、自分の考えをまとめ、 表現できる力を ―毎週1時間、新聞記事から学ぶ 群馬法科ビジネス専門学校 ……………		44
「保育士養成校における NIE 実践保育者に必要な専門的知識を 身に付けるために」 大泉保育福祉専門学校 ……………		48



## ごあいさつ

群馬県NIE推進協議会会長 森谷 健  
(群馬大学社会情報学部教授)

2013年度から会長を仰せ付かっております森谷でございます。今年度も活発な事業が展開されました。皆様のご尽力にあらためて感謝を申し上げます。

2014年5月には、新規と継続を含め、実践校9校が日本新聞協会から認定され、本推進協議会独自の認定校として2校が内定しました。

7月には本推進協議会総会を開催し、事業計画案や予算案を議論いただきました。

7月31日と8月1日の両日、徳島市で開催された第19回NIE全国大会には、実践校から4名の教員の方が参加され、8月7日に開催された大会報告・意見交換会で大会の内容を詳細に報告いただき、熱心に意見が交換されました。

それぞれの実践校での取組状況やその他のNIE関連活動については、上毛新聞の「ぐんまNIEだより」連載を始め、本推進協議会構成員の各紙が紙面で取り上げていただきました。

また、実践校では、近年社会的にも問題視されている児童虐待をテーマとした公開授業をしていただきました。実際に起きた男児の暴行死事件の記事を読み、虐待の要因を探る授業で、熱心な議論が行われました。

全国大会の報告を拝聴しながら、NIEには、実に多様な展開があることをあらためて感じました。「国語・算数・理科・社会」と言いますが、それぞれの教科に、またはそれ以外の教科にも展開できることを知りました。また、本県の実践校は小学校から専門学校までが認定されていますが、これは、年齢や発達段階に即した展開が可能であることを示していると思いました。

他方、今年度の実践校の取組の中にも見られますが、新聞の持つ「即時性」もまた、NIEの特徴であることを再確認しました。昨日報道された事柄を翌日には児童・生徒とともに考えることができる。これは、教科書や副教材を用いる授業にはない大きな特長となっていると確認できました。

ここまで見てきた本推進協議会の着実な実績と実践校の多様で工夫に富んだ取組を、推進協議会の皆様とともに確認し、今後も、NIEの特長を広く県内の学校や県民の皆様にお伝えして参りましょう。

# 多面的に社会的事象について考え、 社会的な見方や考え方を深める子どもの育成

群馬大学教育学部附属小学校 教諭 櫻澤 直明 星野 浩章

## 1 研究主題及び実践概要

社会科では、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことが求められている。そのためには、子どもたちが社会的事象に関心をもち追究し、問題を把握・解決する力や価値判断する力を働かせ、社会生活への理解を深めるとともに、社会との関わり方やこれから目指すべきよりよい社会について考えることが大切である。このような学習を繰り返した子どもは、身に付けた自らの社会的な見方や考え方を基に、これからの社会に対してよりよく関わっていくことができるようになると思う。以上のことから、「多面的に社会的事象について考え、社会的な見方や考え方を深める子どもの育成」を研究主題とした。

そこで、本年度、本校では、研究主題に迫るために時事問題を取り上げた単元を構想し、単元の学習計画の中に新聞記事の活用を位置付け、授業実践を行った。新聞記事は、「つかむ」過程における「問題を見出すための社会的事象との出会い」、「まとめる」過程における「価値判断を促すための社会的事象との出会い」の工夫の一助として位置付けることとした。

## 2 実践の内容

### 【第4学年 「特色ある地域の人々の暮らしー世界遺産と富岡市ー」における授業実践】

本小単元では、群馬県の特色を考え理解するために、県内の特色ある地域として旧製糸場のある富岡市の人々の生活を調べる対象とした。この学習の「つかむ」「追究する」過程では、富岡市の人々が旧製糸場をまちのシンボルとして保護し、中心市街地の産業の資源として活用しながら、特色あるまちづくりをして地域の発展に努めていることを理解し、「まとめる」過程では、自分たちも地域住民としてまちづくりへ協力することの大切さを考えられるように、次のように単元を構想した。

#### 指導計画（全7時間）

目標	歴史ある建造物の旧製糸場を保護・活用しながら、互いに協力して地域を発展させるための特色あるまちづくりに努めている富岡市の人々の生活の様子を理解する。	
評価 規 準	(1) 富岡市の活性化に向けた人々の生活の様子について、関心をもち意欲的に調べたり、地域の発展のために特色あるまちづくりに協力することの大切さを考えたりしようとしている。 (2) 富岡市の活性化に向けた人々の生活の様子について、課題や予想、学習計画を考えたり、旧製糸場を保護・活用した特色あるまちづくりと富岡市の活性化とを関連付けて考えたりして、表現している。 (3) 富岡市の活性化に向けた人々の生活の様子について、観点に沿って調査したり、資料を活用して必要な情報を集めたりして、調べたことをまとめている。 (4) 富岡市の人々は、歴史ある建造物の旧製糸場を保護・活用しながら、互いに協力して特色あるまちづくりをし、他地域から観光客を招き入れるなどの地域の発展に努めていることを理解する。	
過程	時間	学 習 活 動
課題を つかむ	1	○富岡市の活性化に向けた人々の生活の様子について疑問点や調べたいことを考え、問題意識をもつ。 <b>共通課題</b> 「旧製糸場のある富岡市の人々は、どのような工夫をしてまちを元気にしているのだろう」
	1	○富岡市の活性化に向けた人々の工夫について予想し、学習計画を立てる。
追究する	2	○観点に沿って富岡市の活性化に向けた人々の取組について調べる。
	1	○調べたことを基に、富岡市の人々の取組とまちの活性化との関係について交流する。
	1	○富岡市を活性化させている人々の工夫について話し合う。
まとめる	1	○これからの富岡市や自分たちのまちづくりについて大切なことを感想にまとめる。

以上の指導計画において、子どもたちが、近年、注目を集めている旧製糸場と富岡市の関わりについて、より興味・関心をもって学習を行えるように、「つかむ」過程において次のような新聞記事の活用を試みた。

### ＜新聞記事活用の実践場面（課題をつかむ）＞

まず、子どもたちは、富岡市の中心市街地の約15年前と現在の様子、観光客数の変化が分かる資料から、「約15年前に比べてずいぶんと観光客数が増えているな。」「きっと富岡製糸場が世界遺産になったからではないのかな。」などの感想を出し合った。



その後、教師は、富岡製糸場が世界遺産へ認定された情報が分かる複数の新聞記事を提示した。子どもたちは、それらの新聞記事を見て、「世界遺産になったのは平成26年6月だね。」「ぼくたちが4年生になった今年のことだね。」と新聞から情報を読み取った。さらに子どもたちは、世界遺産になるまでの経緯として、ユネスコ世界遺産センターに平成19年に世界遺産に登録してもらう依頼をしたという情報も読み取った。すると、子どもたちの中から、観光客数が増え始めたのは、旧製糸場が世界遺産登録へ向けて動き出した平成19年からではなく、それ以前から観光客数が増加しているという疑問の声があがった。そして、その数が伸び続けている理由を調べたいという思いも出された。このようにして、新聞記事やその他の資料から、活気あるまちへと変化したことや観光客数が増加したことには富岡市の人々の工夫があるのではないかとの意見を交流し、共通課題「旧製糸場のある富岡市の人々は、どのような工夫をしてまちを元気にしているのだろう」をつかんでいった。



＜新聞記事の1つ＞



＜新聞記事から情報を読み取る子どもたち＞

## 【第6学年 「わたしたちの暮らしと政治」における授業実践】

本単元は「わたしたちの生活と政治」「日本国憲法とわたしたちの暮らし」の2つの小単元で構成されている。この学習において子どもたちは、市民の要望による公共施設の完成、議員の選挙、国会や内閣、裁判所の働き、国民の権利及び義務などについて調べ、自分たちの生活と政治との関連について考え、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解してきた。

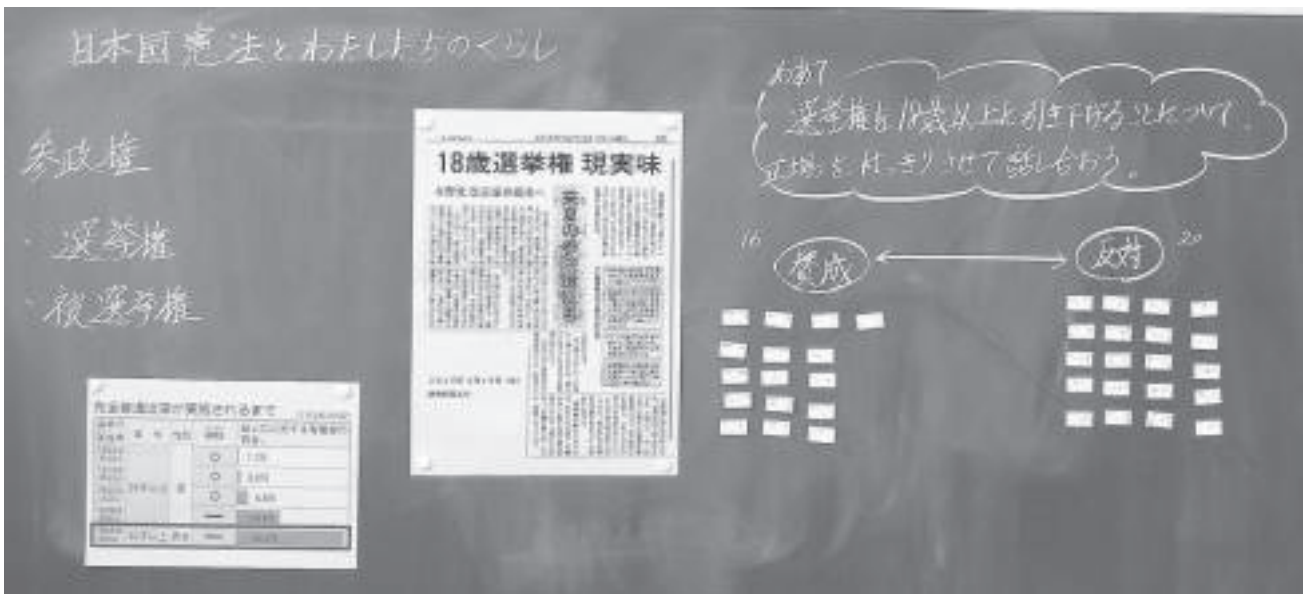
このような子どもたちが、単元の終末において、自分たちがよりよい生活をするために、政治を行う代表者を選出する選挙のあり方について話し合うことは、社会の一員として未来を担う子どもたちにとって価値あることだと考える。そこで、「まとめる」過程において、政治への関心をもつことの大切さを考えられるように、新聞記事を資料提示として活用し、選挙権の18歳以上への引き下げについての話し合い活動を設定した。以下は、その授業実践である。

### <導入>

子どもたちは、これまでの学習を振り返り、国民の権利について確認した。そして、その中の参政権に関わる教師の資料提示を基に、明治期に選挙が実施されるようになった後、完全普通選挙が実施されるまでの変容を読み取った。その後、教師から新聞記事が提示されると、その記事の内容に子どもたちから驚きの声があがり、選挙権を18歳以上に引き下げることに對する自分の考えをつぶやく姿が見られた。そこで、めあて「選挙権を18歳以上に引き下げることに對して、立場をはっきりさせて話し合おう」をつかんだ。

### <展開>

子どもたちは、個別に選挙権を18歳以上に引き下げることに對する自分の考えをもった。そして、一人一人が黒板にネームマグネットを貼ることで自分の立場を明確に示し、その理由について交流した。

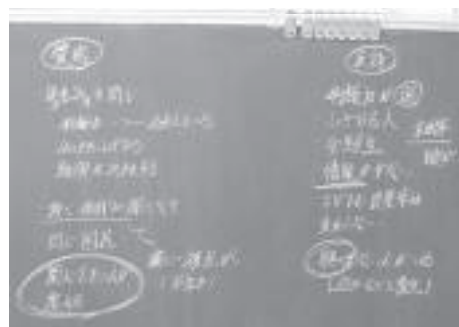


<提示した新聞記事と子どもたちが自分の立場として示したネームマグネット>

賛成派の子どもたちは、「幅広く意見を聞いて政治を進めるべきだと思う。」「年齢を引き下げることで政治に関心をもつようになると思う。」などを理由として主張し、反対派の子どもたちは、「政治に参加する自覚や判断力が低いと思う。」「政治に対する知識が少ないと思う。」などを理由として

主張していった。子どもたちは、それぞれの立場の理由を聞く中で、相手の考えに納得したり、反論したりし、自分の判断の根拠となる見方や考え方を深めていった。

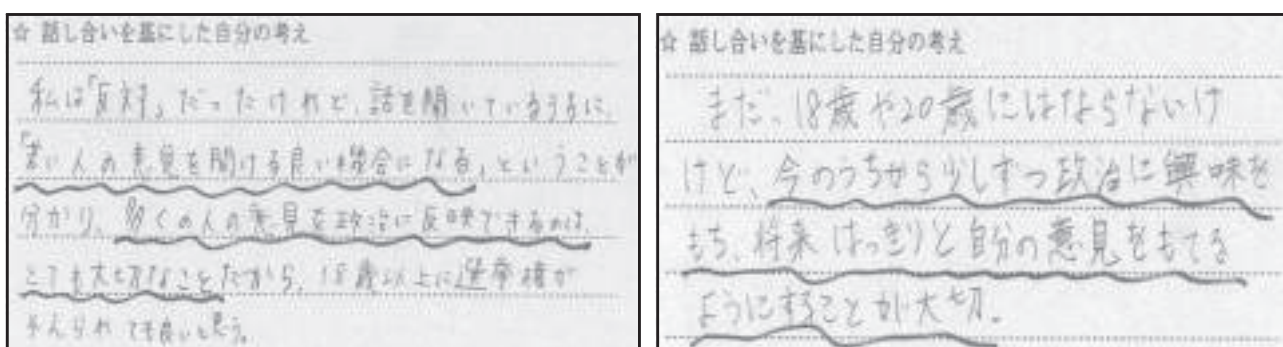
交流する時間を十分に確保し、それぞれの主張のよさを共有した後、教師は互いの主張を基に考える大切だと思うことは何かと問いかけた。すると、子どもたちは「政治に興味をもつこと」や「政治に関わることの知識を増やすこと」などを発言した。



<理由を整理した板書>

### <まとめ>

授業の振り返りとして、一人一人が話し合いを基に考えたことを記述し、発表を行った。以下は、子どもの学習プリントの一部である。



<授業を通しての子どもの感想>

このような姿から、子どもたちは学習の中で友達と話し合ったことを基に、選挙権を18歳以上に引き下げることに自分なりに判断するとともに、政治への関心をもつことの大切さについて考えることができたと思われる。

## 3 実践の感想と今後の課題

### 【成果】

新聞記事を活用することで自分たちの身のまわりに存在する社会的事象についての興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組む子どもたちの姿が見られた。また、学習内容との関連を明確にし、効果的に新聞記事の提示を行うことで、事象についての理解や自己の考えを深めることにつながった。

### 【課題】

子どもたちに提示する新聞記事の内容は情報過多であるだけでなく、小学校段階の子どもたちにとって内容の理解や扱われている文言が難しいものがある。今後、提示する新聞記事の部分をより焦点化したり、教えるべきことと考えさせるべきことをより明確にして、新聞記事を活用したりする必要があると感じる。今後も授業における効果的な新聞の活用について実践を重ねる中で考えていきたい。



# 学びを広げ、深める新聞活用授業の充実

～郷土のよさを見つめ、誇りをもち、地域から世界に

視野を広げる「ふるさと学習」の実践研究を通して～

伊勢崎市立豊受小学校 教諭 田沼 正一

## 1. 研究テーマ、実践の概要

### (1) 研究テーマ

本校は、日本新聞協会より平成24年度にNIE実践推進校の指定を受けて以来、新聞活用の授業実践を進めてきた。一昨年度は、群馬県教育界の今日的課題となるベテラン教員の大量退職時代を迎えて、若手教員の育成研修を立ち上げ、研修内容に「NIE研修」を組み込んで、若手育成研修にNIE研修を取り入れた実践例は全国的にほとんどなく、先駆的な実践になった。そして、若手教員のNIE実践研究では、各教科、領域で新聞活用の授業実践を核とし児童の学びを広げ、深める学習の充実が図れた。この取組を通して、国語科、社会科、理科、道徳、学級活動、総合的な学習の時間等での取組の有効性を実感できた。ところが、ほぼ毎日ある「算数科」の授業での先進実践事例はほとんど見られず、NIEが全教科、領域等で取り入れられることを示す意味でも、「算数科」の実践を研究していくことの必要性を実感し、2年目の研究として6年算数科少人数教室を担当するNIE実践代表者の私自身が授業研究と授業公開を推進した。その結果、「算数科」でも十分NIEの有効性があることが分かった。以下のような児童の感想が寄せられている。

- ◆6年男子 … 「算数で新聞に載った写真やグラフを使うことで関心や集中力が高まりました。」
- ◆6年男子 … 「初めて経済新聞を読み、企業の株価や業績のグラフの読み取りが面白かったです。」
- ◆6年女子 … 「先生が新聞記事を教材に使ってくれて、より深く考える学習が進められました。」
- ◆6年女子 … 「新聞記事のグラフ調べから、算数が生活に息づいていることが分かりました。」
- ◆6年女子 … 「NIEの授業によって、世の中が分かり新聞に慣れ親しむことができました。」

2年間の実践認定校の研究から、さらにもう1年実践認定校の延長をしていただき、3か年目も研究テーマは継続し、研究のニーズに合わせてサブテーマを変更することにした。その理由として、今年度の研究のニーズとして、伊勢崎市では、本年度(平成26年度)より、市内全小・中学校において「ふるさと学習」を実践研究していくことになったことがあげられる。この「ふるさと学習」の目的は、①「自分が生活している地域を見つめ、ふるさと伊勢崎に誇りをもち、伊勢崎から世界に目を向けるようにする。」②「歴史や文化、産業をはじめ地域の教育資源を活用し、地域のよさに学ぶことを通して、視野を広げて物事を考え、課題を解決するとともに、自分の意思や考えを分かりやすく表現できる児童を育てる。」というものである。実践研究の場である教科・領域、授業の単元構成、教材等については、特に規定されておらず、各学校創意で推進するものとなっている。目的から考察すると、自文化に誇りをもち国際感覚を有した児童生徒の育成、そのために探究型の学習活動を通して、今日求められている思考力・判断力・表現力等の活用力を育てることが方法となる。そこで、こうした教育活動に相応しい教材を探していたところ、丁度よい具合に、平成26年6月21日(土)、「世界遺産決定」の「上毛新聞号外」を手にすることができた。この「富岡製糸場と絹産業遺産群」については、過去2回号外が発行されているので、これをシリーズにして、教科、総合、道徳等で教材化できるものと考えた。

### (2) 実践の概要

本市の「ふるさと学習」の研究は、3か年で進めるものである。市の実践研究計画は以下の通りになっている。

【平成26年度(本年度)】：ふるさと学習を可能なところから実施。

【平成27年度(次年度)】：ふるさと学習の実践と年間指導計画の位置付け、全体計画の作成。

【平成28年度(再来年度)】：各校で完全実施。

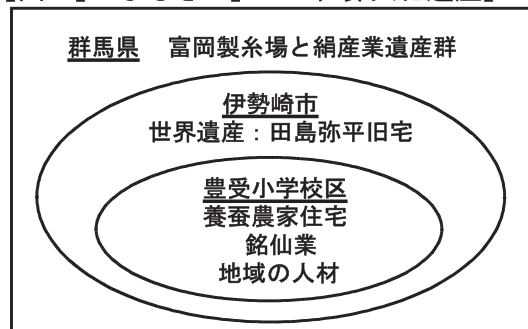
また、「ふるさと学習」で扱う教育資源には次のようなものが例示されている。〔養蚕、銘仙、文化財、地域の自然、地元施設、**地元世界遺産**、地域の偉人、地域の行事、機械工業、地元企業、地元農業、伝統芸能、地域の芸術、昔の遊び、**地域の人材**〕(ゴシック体の文字は実践研究の主たる題材)

一方、「県・市・学校区」とともに「ふるさと」ではあり、「ふるさと」の概念が不明瞭なため、「県・市・学校区」とともに「ふるさと」ではあるので、中心軸に「市」をおいて、考えていくこととした。

そこに、「世界文化遺産」を当てはめて教材化していくものとする。概念図を示すと、右の図のようなものである。

そこで、「ふるさと学習」実施初年度の実践研究として、NIEを取り入れた「ふるさと学習」の実践推進環境づくり、教材収集と分析、富岡製糸場と絹産業遺産群のマップづくり、「年間学習指導計画」づくりに取り組んだ。さらにNIE実践校3か間のまとめで①NIE推進資料一覧表、②全国料一覧表、③全国新聞タイトル早解かりマップを作成した。

【図1】「ふるさと」と「世界文化遺産」



## 2. 実践の内容

### (1) NIE実践推進の環境づくりについて

掲示板「NIE（教育に新聞を）展示コーナー」について……「世界遺産決定」の「号外」を中心に、関連する新聞記事や資料を掲示して、「ふるさと」の歴史・文化に関心をもってもらえるよう特集コーナーを設置した。児童も教職員も地元「世界文化遺産」ができた喜びのもと、大きな活字に驚きをもって読んでいた。さらに、学校に出入りするPTAや関連業者の方々も特集に目をやり反響をいただいている。



環境づくり 掲示板【NIE展示コーナー】

### (2) 教材としての「号外記事」の収集と分析について

地元紙「上毛新聞」の「世界文化遺産」関連の「号外」は、これまでに3回発行されている。時系列に追ってみると、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）に登録されるまでに多くの年月と手間がかかっていること、身近な文化財が世界に経済・貿易・文化等の影響を及ぼしたこと、その文化財の価値に気づき、保護・保全に尽くしてきた先人がたくさんいたこと等々、様々な発見があった。また、空から撮影された全景写真なども新聞ならではの貴重な資料と言える。授業で提示すると児童は上述のような「発見」をして、新聞「号外」の力に驚かされた。



上毛新聞：2012年（平成24年）  
8月23日（木）号外  
【政府、「富岡製糸場と絹産業遺産群」を世界文化遺産に推薦決定】



上毛新聞：2014年（平成26年）  
4月26日（土）号外  
【イコモス、「富岡製糸場と絹産業遺産群」を世界文化遺産の登録勧告】



上毛新聞：2014年（平成26年）  
6月21日（土）号外  
【「富岡製糸場と絹産業遺産群」、世界文化遺産に正式決定】

### (3) 「富岡製糸場と絹産業遺産群のマップ」づくりについて

「富岡製糸場と絹産業遺産群」に関わる資料として、「世界文化遺産」関連の「号外」のほか一般報道記事と「上毛カルタ」が活用できると考え、これらを組み合わせて掲示資料マップを作った。例えば、群馬県白地図に、地元伊勢崎市の位置を示し、「田島弥平旧宅」や市内各小中学校の「ふるさと学習」紹介記事と「上毛カルタ」の「め」の札（読み札と取り札）を並べて貼り付けた。児童にとって「上毛カルタ」は、低学年からずっと慣れ親しんでいる郷土資料であり、理解の補助に効果的であると考えた。

【図2】「富岡製糸場と絹産業遺産群のマップ」



#### 【マップの資料例】

##### ◆伊勢崎市

- 位置を示す印
- 「上毛カルタ」の「め」の札
- 田島弥平旧宅の新聞記事
- 市の「ふるさと学習」新聞記事等

(4) 「ふるさと年間学習指導計画」づくりについて

「ふるさと学習」の推進に当たり、各教科・領域を見渡して、単元・題材で「ふるさと学習」に成り得るものを一覧にして整理した。単元・題材を明示するにあたり、市の例示との関連を意識して作成した。これに、NIEの関連を図るとより効果的な学習が推進できると考える。

【図3】 「ふるさと学習年間学習指導計画」

【記載例】  
 ◆4年：社会  
 ○わたしたちの群馬県  
 ・群馬県の子主な産業：養蚕…①  
 〔①⇒養蚕文化について〕

3. NIE実践推進校3か年のまとめについて

(1) 「NIE推進資料一覧表」について

3か年に、計36回発行してきた。この資料は、教職員のNIEへの関心・意欲を高めることを意図し、NIEの進め方、学習指導の教材に資する記事、教育問題、時事問題等に関して、新聞記事を中心に「たより」として発行してきたものである。以下の一覧表では、号数・日付・内容を列挙している。

年度	号数	発行日	NIE推進資料の内容
平成二十四年度	1	H24. 9. 4. 火	○職員会議提案…NIE（教育に新聞を）の取組について
	2	H24. 10. 5. 金	○NIEセミナーのご案内、「のはらうた」詩の授業について
	3	H24. 11. 7. 水	○「地震予測はずし有罪」「倒木 食器でよみがえる」(記事紹介)
	4	H24. 11. 19. 月	○NIEセミナー…響く授業 新聞で演出
	5	H24. 11. 21. 水	○新聞で道徳・国語・社会科・キャリア教育を！
	6	H24. 12. 5. 水	○世界を新たな目で新聞感想文コンクール、市 英語教育導入
	7	H25. 1. 7. 月	○NIE新規実践校紹介 伊勢崎豊受小「教師力」向上に一役
	8	H25. 1. 17. 木	○小学英語多様化 ALTと担任の連携が課題、少年の主張全国大会発表文
	9	H25. 2. 27. 水	○豊受小人権教育講演会の紹介、スキージャンプ高梨さん記事
	10	H25. 3. 21. 木	○言語活動について、「ファイト新聞」美術館へ 気仙沼
平成二十五年度	11	H25. 4. 11. 木	○NIE学会会長 情報は生活必需品、いじめを許すな！
	12	H25. 4. 23. 火	○例幣使街道に伝説数々 伊勢崎市馬見塚町周辺、体罰について
	13	H25. 4. 25. 木	○HAPPY NEWS大賞について
	14	H25. 5. 23. 火	○道徳の教科化について、偉人伝から学ぶ生き方
	15	H25. 6. 26. 水	○「ごんぎつね」の作者 新美南吉の関連記事特集
	16	H25. 6. 28. 金	○教育現場で危機管理を！ 体罰3200校で6000件 体罰関連記事
	17	H25. 7. 1. 月	○教育現場で危機管理を！ 練馬区で下校の3児童切りつけ
	18	H25. 9. 6. 金	○第18回NIE全国大会静岡大会に参加して 研修報告
	19	H25. 10. 1. 火	○新聞で育てる、福井県大野市立上庄小学校NIE計画表
	20	H25. 11. 7. 木	○道徳、15年度教科化、6・3・3制の改編について
	21	H25. 11. 14. 木	○NIE実践認定校の公開授業 道徳学習指導案について
	22	H25. 11. 18. 月	○給食のアレルギー事故 模擬訓練で備えを
	23	H25. 11. 27. 水	○小6男児学校で自殺か、スマホ子守やめて 小児科医会啓発へ
	24	H26. 3. 17. 月	○新潟県長岡市と伊勢崎市の絆について…「米百俵」の縁から
平成二十六年年度	25	H26. 6. 24. 火	○活用力（思考力・判断力・表現力等）の向上のために
	26	H26. 9. 17. 水	○NIEは、広がっています！ 徳島県・広島県の実践例
	27	H26. 9. 25. 木	○雨ニモ負ケズ…の宮沢賢治の新資料発見！！
	28	H26. 10. 10. 金	○「毎日読む」子 正答率高く 学テ分析について
	29	H26. 10. 14. 火	○「新聞週間」について、ノーベル平和賞・マララさんの演説
	30	H26. 10. 20. 日	○伊勢崎市の「ふるさと学習」・各校の実践例
	31	H26. 10. 21. 火	○交流のある授業に活かせるNIE（新聞活用）
	32	H26. 11. 17. 月	○ふるさと「豊受」について、小林一茶の紀行文について
	33	H26. 12. 19. 金	○不審者の事件・雪害の対応について
	34	H27. 2. 6. 金	○「道徳の教科化」の方向性が明らかに！
	35	H27. 3. 11. 水	○東日本大震災4年・311忘れまい、
	36	H27. 3. 22. 日	○NIEセミナー参加報告、アクティブ・ラーニングについて



掲示板【NIE推進資料コーナー】



上毛新聞：2014年（平成26年）10月18日（土）記事  
【富岡製糸場 国宝に近代化政策を象徴  
文化審答申 県内初指定へ】

**(2) 「日本全国新聞タイトル早解かりマップ」について**

NIE実践推進校の研究のまとめを意図して、右の写真のような「日本全国新聞タイトル早解かりマップ」の作成を行った。普段、児童が家庭や学校でする新聞は、全国紙〔読売・毎日・朝日・産経・日本経済〕の各紙と地元紙〔上毛新聞〕である。

そこで、日本全国に視野を広げ、各地に地方紙が存在することを新聞タイトルを使ってマップを作り掲示することとした。今回の作成作業で、全47都道府県全てを収集・網羅することはできなかったが、教職員に呼びかけて、故郷や旅行先で入手できた地方紙でマップを作成することができた。今後も収集を継続し、マップに加えていく予定である。

【図4】 「日本全国新聞タイトル早解かりマップ」



◆収集できた地方紙

- 北海道地方…北海道新聞、十勝毎日新聞
- 東北地方…秋田魁新報〔秋田〕、河北新報〔宮城〕
- 関東地方…下野新聞〔栃木〕、上毛新聞〔群馬〕  
いせさき新聞〔群馬〕、東京新聞〔東京〕  
千葉日報〔千葉〕
- 中部地方…新潟日報〔新潟〕、静岡新聞〔静岡〕  
中日新聞〔愛知〕
- 中国地方…中国新聞〔広島〕
- 四国地方…愛媛新聞〔愛媛〕、高知新聞〔高知〕
- 九州・沖縄地方…西日本新聞〔福岡〕  
南日本新聞〔鹿児島〕、琉球新報〔沖縄〕  
沖縄タイムス〔沖縄〕

**3. 3か年のNIE実践推進校としての取組の振り返りと今後の課題**

**(1) 3か年のNIE実践推進校としての取組を振り返って**

この3年間のNIEの実践研究を行ってきて得られた成果は、以下の通りである。

- ①**第1年次**…若手教員の教師力向上のために、「教師力アップ研修会」でNIEの実践研修を行った。その結果、新聞活用によって、資料収集力・教材開発力の充実と思考力・判断力・表現力等の活用力を伸ばす授業改善で成果をあげることができた。
- ②**第2年次**…新聞活用の算数科授業の実践で、資料となるグラフや表などの統計資料等の資料から児童の興味・関心を高め、資料となる記事の読み取りで思考力を高め、併せて世の中の動きを捉える力をつけるとともに、学びを広げ、深める学習指導に効果をあげることができた。
- ③**第3年次**…市の「ふるさと学習」初年次として、活用できる新聞資料収集、学習指導計画の作成、教材マップ作りを行った。実践段階の2年次に向け、新聞活用による成果が大いに期待できる。

**(2) 今後の課題について**

今後の動向として「アクティブ・ラーニング」の充実が求められる。こうした話合いや協働の授業で、NIEの実践研究は有効であろう。3か年の実践研究を踏まえてその推進に寄与していきたい。

# 魅力的なNIEの発信

—新聞を活用し、生徒の多面的な物の見方を促すことによって学びの自立を目指す—

高崎市立高松中学校 教諭 小林久美子

## I. 本年度のねらい

NIE実践指定校継続校（2年目）として、次の項目を課題にし、「新聞を教育に」取り入れていく工夫について、全校の各分野で様々な試みを行うこととした。

- (1) 新聞を手にとって読める環境整備に努める。
- (2) 授業、学級、委員会、行事などで新聞を活用し、新聞を使った教育の実践を推進する。
- (3) 図書委員会等と連携し、場所・空間・管理まで含めた新聞環境作りを行う。
- (4) 資料保管、調べ学習、作品掲示等、活動と表現の場として図書館を積極的に活用する。

## II. 新聞の管理について

### (1) 新聞購読計画

9月1日（月）～12月26日（金）の4ヶ月間

朝日新聞（朝夕刊）・読賣新聞（朝夕刊）・毎日新聞（朝夕刊）・産経新聞・東京新聞・日本経済新聞（朝夕刊）・上毛新聞各1部 土曜日曜祝日も配達される。

### (2) 整頓についての基本的な流れ

教室に新聞を配布し、より身近に新聞に親しむ環境をつくる。また、学活や授業における新聞活用の機会を増やすために、一日経った新聞をや夕刊を、教室に配布する。

①当日の新聞(最新版)	2階西連絡通路の机の上に平置き（新聞クリップ使用）
②夕刊および昨日以前の新聞	職員室前の各クラスのボックスに分配→教室および教科等で活用→各教室に配布されたラックに四つ折りで収納
	各クラスのラックに溜まった新聞を図書委員が図書館に運ぶ（10日に一回程度）→新聞社毎のコンテナに収納→当番がスクラップ作業
③一定期間過ぎた新聞	古紙として図書委員が束ねて物置へ

## III. 授業実践例

### 国語科学習指導案

平成26年10月20日（月）第1校時  
第3学年4組 指導者 小林 久美子

#### 授業改善の視点

一人称で書かれた新聞のコラム記事と照合せながら取材のやりとりを想像していくことは、取材対象の人間性や事実の臨場感を生き生きと引き出すために有効であったか。

### 1. 題材名 読み手を引きつける文章を書く

## 2. 考察

(1) 生徒の実態 (男子 18 名 女子 18 名 計 36 名)

### 【題材に関する関心・意欲・態度】

国語の授業全般について5名が「好き」、20名が「どちらかと言えば好き」と答えているが、国語に抵抗感のある生徒による、学習道具の忘れ物や居眠りなどの受け身的な授業態度は否めない事実である。文章を書くことについては、4名が「好き」、13名が「どちらかと言えば好き」と答えており、クラスの半数は文章を書くことに抵抗感をもっていたり、書くことの喜びを見い出せてはいないと考えられる。

### 【書くこと】

4月に行った全国学力調査の結果によれば、「書くこと」に関しての得点は全国平均点を上回っているものの、161字以上220字以下で出題された条件作文に反応できないまたは不十分な生徒が36.1%いた。

新聞を「書くこと」の授業で扱うことに関して、1学年時より朝日新聞「天声人語」の視写に毎授業の始まりに取り組むほか、しばしば新聞を授業で活用してきており、生徒は新聞を使う授業に慣れてはいるものの、新聞を普段読む生徒は、「毎日」と「時々」合わせて15名に止まる。新聞を読んだり天声人語の書き写しをしたりすることが役立っているか意識調査を行ったところ、「語彙力がついた」(17名)、「社会の出来事や様々な事象への関心が高まった」(15名)、「授業中のノートが速く書けるようになった。」(10名)という回答が得られたが、「表現が上手になった」は7名、「要約が上手になった」と答えた生徒はいなかった。

これまでの学習により、立場を決めて根拠や意見を述べる文章をパターンを決めて書くことには慣れてきたが、情景や心情の描写を取り入れて読み手の関心を引く表現をしたり、言葉を選んで表現する喜びを味わおうとする力は十分とは言えない。

### 【言語に関する知識・理解・技能】

取材に欠かせない敬語を、適切に使おうとする関心は高い。国語の授業中は辞書を携帯し、随時引くように薦めているが、日常的に積極的に辞書を引いて慣用句や熟語等に関する知識を広げたり、社会生活の中で使おうとしている生徒は、あまり多くないと思われる。

## (2) 題材観

本教材で身につけたい言語能力は、読み手を引きつける文章のための、文体の変化を理解し事実を書き替える力である。新聞の高校野球の結果を伝える記事の脇に掲載されたコラム記事を読み、その文体における一人称の表現の効果を考え、取材の方法と記事作りを疑似体験しながら、読み手を引きつける文章の書き方を学習する。

新聞のインタビュー記事は、一般的に、実際のインタビューで交わされた会話の他に、書き手がその対象について事前事後に調べた資料、取材対象とその場について書き手が受けた印象や気付き等から構成される。また、書き手の主観だけでなく、その取材対象の社会的立場や大衆からの視点が加わり、書き手が読者に知らせたい事実と取材対象の人間性の描写の合成により、読み手の興味をそそるものとなっている。

生徒の多くは、これまでに国語科の授業や総合の職業体験、学活や学校行事などの場面等で、インタビューをしたり、アンケート調査をもとにした発表などを行ったりという経験をしているが、その報告の多くは「この問いに対してこう答えた」という事実の報告に止まり、取材した人物の思いを受け止めて自分が伝えたいことに昇華して書く(話す)と

いう段階に至っていない。

そこで、生徒に近い年齢の高校生が取材に答え、記者がその高校生になりきって一人称で書いたコラムを読み、その記事がどのような過程を経て構成されているのかを読み解き、自分の表現に生かすことを試みることにした。高校野球の選手でない裏方の人物に光を当てたコラムを読むことは、華々しく報道される事実の裏側にいた人の思いを伝えるための一人称の効果を実感するのに最適である。また、表現されたことから取材の場を想像していくことは、想像力・表現力を育成する機会となると考えられる。

さらに、個々がコラムを書くための実際の取材では、中学校最後の文化祭を疑似体験の取材の場として取り上げることで、取材者が紹介したい人物の思いに共感しやすく、より良い表現への意欲を高める学習が期待できる。そして、一人称のコラムを作成するために、相手の心情を適切に伝えるための言葉を選んだり、書き手自身の思いを媒介する必要性に気づき、生徒達は推敲しを重ねながら、よりよい伝え方を工夫するであろう。同じ事柄や取材対象であっても、書き手の思いによって語彙や表現の仕方が異なることに気付くことは、表現の喜びを味わい、今後の文章表現に対する意欲を高めると期待できる。

### 3. 指導方針

#### i 新聞を使うことについて

○高校野球の記事およびコラムをコピーして全員に配布し、文体の違いやそれによって受ける印象について、グループの中で意見を交流させる。

○ワークシートを工夫し、文体の違いと効果が明確に理解できるようにする。

#### ii 取材・編集について

○疑似取材の活動をは4人グループで行うが、取材対象や内容が多岐にわたるようにグルーピングを設定する。

○取材対象の人間性や臨場感が表現でき構成されるようなワークシートを工夫する。

○記者と取材対象になりきってインタビューを行うようにさせ、取材対象の気持ちを具体的に表現させるとともに、その記録を十分にさせる。

○取材したが、編集の段階で選ばなかった材料について、根拠を明確にさせる。

#### iii コラム記事の作成について

○「はがき新聞」の形で個々にまとめさせる。

○「はがき新聞」は事後に一斉に掲示することにより学年全体も相互評価できるようにする。

### 4. 校内研修とのかかわり

本校の研修テーマである「学びの喜びを知り、学びの自立した生徒の育成」を実現するために、国語科においては、まず自分の考えを「もち」、「広げ」、「発信していく」力を様々な言語活動を通して育成したい。新聞記事のコラムの独特な文体を検証する本授業では、想像を広げ、伝えたいことを明確にして独自性ある表現活動を行う喜びを味わわせることができ、自立した学びにつながっていくことと考える。




### 5. 本時の学習（2／4）

#### i ねらい

人間性や臨場感を生き生きと伝えるコラムを書くために、質問や回答を想像して疑似取材を構成することができる。

#### ii 準備 新聞コラム 新聞記事 ワークシート 付箋紙

iii 展開

学 習 活 動	時 間	学習活動への指導・支援と留意点 評価方法
<p>1. 前時までの学習内容を確認し、本時の学習のねらいと過程を知る。</p> <div data-bbox="212 427 547 573" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>コラムを書くために行われたインタビューを予想しよう。</p> </div>	5	<p>○取材したことを一人称の文体で伝える記事を書くことが単元の目標であることを確認する。</p> <p>○ワークシートを配布し、本時のねらいを伝える。</p> <p>●想像力と協力によってねらいが達成できることを伝え、意欲を高める。</p>
<p>2. 学習の手順について知る。</p>	5	<p>○ポイントを黒板に掲示する。</p>
<p>○記者と取材対象のやりとりを具体的に想像して書く。</p> <p>○取材しながら、読者に伝えたいことを明らかにしていく。</p> <p>○話し合いの内容は記録係がワークシートに記入していく。</p>		
<p>3. 3～4人組に分かれ、擬似取材録をつくる。</p> <div data-bbox="164 1061 568 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="201 1406 531 1697" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>コラムを書くために、記者と取材対象の間でどんなやりとりがあったか、コラム記事と照合させながら想像していこう。</p> </div> <div data-bbox="196 1783 568 2060" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div>	30	<p>○班編成は教室の座席により行うが、記録係は予め決めておく。</p> <p>●はじめに、どのようにしたら取材対象の本心を具体的に聞き出せるかのアイデアを発表させ、確認させる。</p> <p>○コラムの文章には表現されていないことも聞いたり答えたりしているであろうことに気付かせる。</p> <p>●読者に伝えたいことから大きく逸れていない限り、自由度を広げて取材を想像させる。</p> <p>○記録をとりながら、質問の効果的な順番についても考えさせる。</p> <p>○話し合いの途中で、他のグループと交流させるが、他者の考えを取り入れることより、独自性を大切にさせる。</p> <p>○新聞のコラムと擬似取材内容を比べながら、取材が十分であるかを検証させる。</p> <p>●やりとりを想像できた部分に印を付けさせていく。</p> <div data-bbox="810 1715 1273 2060" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div>





4. 各グループの工夫した点について発表する。	7	○数人の生徒に発表させ、取材の工夫について共有する。
5. 本時の学習を振り返って自己評価をし、次時の見通しをもつ。	3	○学習習慣チェック表に自己評価を記入させる。 ○次時は文化祭についての疑似取材を役割を決めて行うことを知らせ、意欲をもたせる。

#### IV. 新聞切り抜きコンクールへの出品（次頁に作品写真を掲載）

本校にとっては初の試みであったこともあり、生徒会図書委員会の委員長・副委員長の3名の精鋭が、学校図書館指導員北村いづみ先生の指導を受けながら作成に取り組んだ。

2014年の話題として、世界中を恐怖に陥れた「エボラ出血熱」と、「感染」というものを身近に感じさせた「デング熱」に注目し、6紙より新聞記事を集めた。記事の読み込みと取捨選択を指示した図書委員長 S（2年）を編集長としたが、彼は科学部の部長でもあり、テーマは彼自身の興味関心が根底にある。観察力があり緻密な作業を得意とする美術部の T（1年）、知識欲があり創作意欲の高い吹奏楽部の K（2年）という、最良の仲間と共に取り組んだ結果、中学校の部で優秀賞を受賞した。

S の感想：「エボラウィルスの名前の由来について詳しく知ることができた。一方、デング熱がアメリカで流行したのは知っていたが、日本で初めて感染者が出たことを実感できた。1つの事柄でも、新聞社によって取り上げ方が異なることに気がついた。」

K の感想：新聞社毎に記事の印象が違い、大きさの違う記事をはめ込む作業はパズルのようで、とても楽しかった。テレビのニュースでは聞き流してしまっただけでよく分からなかった感染の仕方を、新聞記事を読むことによって理解することができた。

T の感想：新聞を読んでいると、新聞社がレイアウトや内容に様々な工夫を凝らしていることに気がついた。

3人は、それぞれの持ち味を発揮しながら、それらを上手く融合させて作品を仕上げた。

昼休みや放課後、部活動の合間を縫って、3人の時間を持ち寄って作業は行われ、完成したのは年が明けた1月6日の午後だった。一人では到底なし得ない作品を、意見を出し合いながら、協力して完成させた。この作品は、構成、文章、イラストなど、一人ひとりの得意分野を出し合っ創られた、長所のかげ算である。2014年、人々に対して「猛威」であった感染症に対する知識が自然と身に付くと同時に、新聞の良さを実感することができた体験でもあった。完成した作品を掲げて撮影した記念写真の生徒たちの笑顔は、達成感と満足感に溢れていた。

#### VI. 成果と課題

多くの生徒が利用する廊下に新聞を平置きに展示することで、休み時間や朝、放課後に多くの生徒が新聞を手にとって閲覧する光景が日常的となったが、NIE実践指定2年目の今年は、昨年度よりさらに生徒に新聞に親近感をもたせるために、廊下に一度配架した

新聞（一日前の物）を教室にランダムに配布することにした。すると、「朝の10分間読書」の時間に、新聞を手にする生徒の姿が見られるようになった。また、授業者が意図的に「NIE」を授業の中で活用する機会が増え、特に社会科、国語の教員にとって、「新聞は、あれば便利、ないと寂しい」教材である意識が高まった。朝日新聞の天声人語の書き写しについては、3年生は1学年時から3か年にわたり国語の授業で取り組んだ。

年度末に行った生徒の意識調査の結果は以下の通りである。

単位は%	1年	2年	3年
新聞を読むことがとても（まあまあ）好きである。	48	31	46
NIEコーナーに置かれた新聞をよく（時々）読む。	48	31	42
教室に置かれた新聞を読む。	20	9	17
掲示されている新聞をよく（時々）読む。	32	32	26

新聞は、それが置かれている場所に行って読むという生徒が多い実態が明らかになった。友人らと語り、次の授業の準備をし、問題集や宿題に取り組むことが多い中学校の教室の風景に、「新聞」が入り込む隙間をつくることは、なかなか難しいことであるかもしれない。来年度実践指定を外れる来年度においては、2つの異なる銘柄の新聞購入を学校予算の内に位置づけ、これまでの「新聞環境」を継続させていくことで、新聞を積極的に生活に取り入れ、読解力と思考力を高める生徒の育成に継続的に努めていく計画である。



# NIEで言語能力の向上を図り、「社会で生きて働く力」を育む（3年計画の2年次） NIEを取り入れた二年生のキャリア教育を中心として

太田市立西中学校 松橋美智子

## 1 はじめに

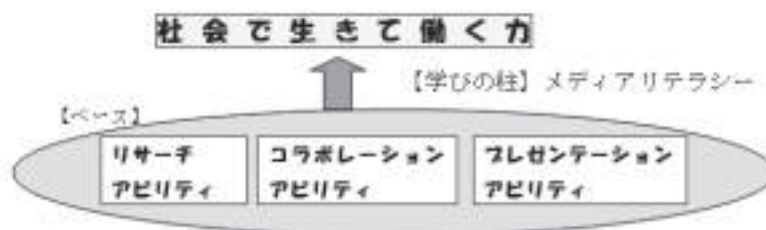
本校は、昨年度から主として国語科の教科指導の中に新聞をツールとするNIE活動を取り入れ、「リサーチアビリティ（情報の収集、情報選択活用能力→キャリアプランニング能力）」「コラボレーションアビリティ（グループで学び合い、相互に啓発する力→人間関係・社会関係形成能力）」「プレゼンテーションアビリティ（自分の意見を整理し、わかりやすく発表する力→言語活動の充実 人間関係・社会関係形成能力）」という三つの教科横断的な「学習力」を「ベース」に、言語活動を活発化し、言語能力を高め、「メディアリテラシー（情報を精査し、時代を読み解く力）」のスキルを学び、自分と社会とのつながりを考えさせることによって「社会で生きて働く力」の素地を身につけさせることをねらいとした実践を行ってきた。

一方、中学校生活の半分が過ぎた二学期の二年生は、目前に控えた卒業後の進路を

念頭に置いて三年生が一心不乱になる様子を見ながら、ともすれば将来の夢を実現させるために現在をどのように生きるべきかを考えることよりも学業成績の良し悪しにとらわれ、高校選択または職業選択にのみ目を向けがちである。

しかし、現代の知識基盤社会の急速な情報化の進展の中で、膨大な情報を素早く正確に判断し処理する能力や自分の考えや主張を的確にまとめて情報として発信していく能力が求められている生徒たちにとって、より重要なことは、メディアが形作る「現実」をクリティカルに読み解きより広い視野を持ち、社会のあり方と自分自身の将来とを照らし合わせながら「どのように生きたいか」を具体的に考えていくことである。

そこで、今年度は二年生の「総合的な学習」の指導計画に位置づけられている「キャリア教育（中心は職場体験学習）」のなかに、実社会を映し出す「新聞」を活用するNIEを取り入れた総合的な学習と国語科のクロスカリキュラムとしてのNIEの実践を中心にして、昨年度の実践を継続して行った。



## 2 新聞の置き場所と整理の方法

今年度も上毛新聞・東京新聞・産経新聞・毎日新聞・朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞の7紙を提供して頂いた。

上記に加え、読売新聞については新聞店のご好意で全クラスに1部ずつ（15部）が届くため、生徒玄関に「新聞入れ」を設置し、各クラスの新聞当番が登校時に自分の学級に新聞を持っていき「NIE新聞ラック」に置くため、全校生徒がいつでも自由に教室で新聞が読めるようにした。

また、報道委員会の活動として、生徒玄関に毎朝届く7紙の一面が比べられるように掲示する「新聞当番」活動を行った。この活動により、登校時に全校生徒が自然に朝刊紙面

の比較ができるため、各紙の記事の取り上げ方や見出しのつけ方の違いにも気づき、関心を高めるのに効果的であった。

### 3 実践内容

#### (1) キャリア学習

##### ① 導入…1時間（発展 国語科…4時間）

朝日新聞掲載の人生相談「悩めるつぼ・人生の目標が見つかりません 高校2年女子の相談」（2013年4月20日）を取り上げ、「カウンセラー」になったつもりでアドバイスを考えさせ、自分のアドバイスと新聞の回答者（美輪明宏氏）のアドバイスを比較させる。



<活用したワークシート↑>

この記事を取り上げたのは、以前国語科でナイジェリアのボコハラムによる少女拉致事件について読売新聞の「解・少女の可能性奪うな（2014年5月14日）」を取り上げたことがあり、この事件の被害者である少女たちと高校2年の女子生徒とを比較できるということに加えて三輪氏が「解」の文中の「花子とアン」のナレーターとして、またアニメ映画「もののけ姫」の「モロ」の声優として生徒たちが知っている人物だからである。

次に、回答者のアドバイスが自分にも生かせる部分があることに気づかせたうえで、多くの人物が取り上げられている新聞から「自分の将来を考えた時、生き方を学べる人物」を探そうということで意欲を高め、スクラップ活動を開始した。

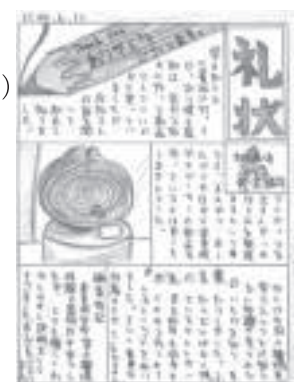


<壁新聞（班新聞）↑>

このスクラップ活動は国語科の「読書と情報～気になる『あの人』を探ろう～メディアの特性を生かして調べる」という単元で詳しく取り上げ、自分の将来の職業や生き方について考えを深めさせるために、4人一組のグループ活動で話し合い活動を行い、各自がスクラップした記事の中から人物を一人にしぼり、その人物の職業や生き方、考え方等について調べ、模造紙一枚の壁新聞にまとめて発表させる活動を行った。

##### ② 職場訪問・見学（東京校外学習）及び「礼状はがき新聞」

「東京校外学習新聞」制作…18時間（旅行的行事6時間を含む）  
旅行的な行事である東京郊外学習に、2学期実施予定の職場体験学習の事前学習として職場訪問・職場見学を取り入れた。その際、1年次に新聞記者の出前授業で学んだことが生かせるよう、質問事項を考え、相手先の都合を確認してインタビューや取材活動を行うよう働きかけた。



<礼状はがき新聞↑>

日本の首都である東京都には地方には無いさまざまな企業や施設があり、その見学を通して、政治的、経済的、文化的な面から首都としての東京都の特徴を理解させるとともに、職場見学とその体験を通して、そこに

働く様々な人々の様子から職業（種類、実際の仕事の内容、意義、自分の関心を持った点）について学習させ、それを「礼状はがき新聞」と「東京校外学習新聞」にまとめ、発表させた。

③「将来設計」「進路の計画」立案… 1時間

④ 新聞の「求人欄・広告調べ」… 2時間

生徒にとって一番の関心事である進学と仕事に関する資料として、高校を中退した先輩が後輩に向けて実社会での体験を語ったメッセージを用意し、関心をもったところで「新聞の求人欄・求人広告調べ」を行った。

「求人欄や求人広告」にはさまざまな情報が含まれており、実社会の状況の一端を容易につかむことができるからである。

⑤ 職場体験学習… 3 4 時間(事前指導 8 時間 職場体験学習 1 8 時間 事後指導 8 時間)

今までの学習の成果を生かし、生徒の興味・関心を尊重し、77カ所の受け入れ事業所を開拓・確保し、職場体験学習を実施した。

事前指導として、訪問先調べ、訪問マナーの研修とロールプレーによる対話のシミュレーション、自己紹介カード（「私の履歴書」）の作成と事前訪問による打ち合わせを行い、3日間の職場体験学習を行った。

事後指導の一つ目は、職場体験学習で自分が学んだポイントを「はがき新聞」にまとめて発表し、生徒が互いの知識や情報、気づいたこと等を話し合い、考えを深めていくことが出来るようにしたことである。このはがき新聞と礼状を各事業所に届けた。

二つ目は、職場体験学習の成果発表会（1月30日実施）で、一年生と保護者、及び職場体験学習の際の受け入れ授業所の方々にむけたポスターセッションである。

⑥「立志の決意」と「将来設計」「進路計画」の修正… 3時間

これからの生き方についての考えを整理し、「立志の決意」として作文にまとめる。また、学習活動を振り返り「将来の設計」「進路の計画」修正する。

(2) その他の実践

①新聞スクラップ活動

「コラム調べ」と題した新聞スクラップ活動、「私論・短論 100 字コラム・200 字コラム（自分が選んだ新聞記事についてコラムを書く）」自分の興味関心を持った記事について解説する「5 分間ニュースキャスター」活動や「1 分間ニュースプレゼン」等は常時活動として継続してきた。実社会の出来事に関心を持ち、新聞記事をきっかけと



<東京校外学習新聞>



<求人欄・広告を調べ>

<ポスターセッションの様子→>

2月15日上毛新聞



してインターネットや図書資料等を使ってより詳しく調べ、自分の考えを持つことができるようになっており、「一緒に読もう新聞コンクール」や「新聞切り抜きコンクール」で受賞する生徒もおり、意欲の向上に結びついている。



<新聞切り抜き作品↑>



<一緒に読もう新聞コンクールについての記事↑>



② 一面コラムの書き写し（視写）活動

昨年度に引き続き「天声人語」や「編集手帳」、「三山春秋」「余禄」「筆洗」等、さまざまな新聞者の一面コラムを書き写させることにより、文章力（語彙力・表現力・構成力）、時事力、(世の中の出来事に敏感になること)集中力のアップを図った。

③ 今年の自分を表す漢字

楽しく取り組める活動として、12月12日の清水寺の森貫主の記事を取り上げ、「今年の自分を表す漢字」とともに、一年間の反省と来年度の抱負を発表し合った。



④ 礼状のはがき新聞

ゲストティーチャー等にはがき新聞で感謝の気持ちを伝える



5 成果と課題

キャリア学習においては、N I Eを取り入れたことで、生徒達は実社会の状況を知り、実社会に目を向けて将来を考えていくことの重要性に気づき、「将来設計」や「進路計画」をじっくり考え、夢の実現に向けて頑張ろうという意欲が高まった。

また、様々な体験活動のまとめや学習のまとめの際に「はがき新聞」や「学習新聞」等の新聞制作活動に取り組んだことで、伝えたい内容の要点を適切に要約して表現にしようという意欲と言語能力が高まった。さらに、「はがき新聞」については、事業所や地域の方々との交流が生まれ、相手からの礼状や励ましの言葉を頂いたことが励みになり、より良い学校生活にしていこうという意欲に結びついている。

来年度もN I Eを推進し、より主体的、創造的に取り組む態度を育てていきたい。

# 社会の一員としての自覚を高め、 多面的に物事を考えられるようになる

沼田市立沼田南中学校 教諭 高橋千賀子 古田島 茂  
阿部 忠博 森 峯子

## 1. テーマ設定の理由

新聞をとっていない家庭が増えている。「テレビ番組はテレビのリモコン操作で間に合う」とか「ニュースはテレビやパソコンで見るから必要ない」という人もいるが、新聞はテレビ番組やニュースを読むだけのものではない。新聞を読んでいくうちに、思いもかけなかった記事に目を奪われ、そこから人生が変わることだってある。生徒に「新聞の良さ」を分からせたい。そのために、1年次の今年度は、まず、新聞を読むこと、感想を交流し合うこと、投稿すること等を通して新聞に慣れ親しむことから始めることにした。「ニュースはテレビで見る」と言っている生徒も、テレビではバラエティやアニメを見ていてニュースを見ないことが多い。まして、政治・経済は子どもには関係ないと思っ

ている生徒もいる。選挙権年齢を18歳に引き下げるか否かが話題になっている。現行のままだとしても、中学生のうちから政治・経済などに興味・関心を持たせ、社会の一員としての自覚を高めることが必要である。

また、同一の出来事でも新聞社によって記事の書き方が異なっている。新聞によって伝わり方が違うことや、同じ記事でも、自分や友達との受け止め方が違うことなどから、多面的に物事を考えるきっかけになると考えた。以上のことから、このテーマを設定した。

## 2. 実践の内容

【国語科 : 第1学年授業実践】

- (1) 題材名 新聞を読もう
- (2) 題材の目標 「できごと」を5W1Hで把握する力を身に付けよう
- (3) 指導と評価の計画 [全1時間予定]

学 習 活 動	時 間	評 価 項 目 (方法)	A 十分満足 B おおむね満足		
			関	読	言
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事を5W1Hの方法を使って読む。</li> <li>・複数の新聞を読み比べ同じ出来事でも記述の仕方によって事実が変わって伝えられることがあることを知る。</li> </ul>	1	A 内容を把握するには5W1Hの方法が便利であることを知り、その方法で読解を進めようとしている。また、新聞によって記述が違うことに気づいている。 B 内容を把握するには5W1Hの方法が便利であることを知り、その方法で読解を進めようとしている。 (ノートの記述)	○	○	○

### (4) 本時の学習

- ①ねらい ・「できごと」を5W1Hで把握する力を身に付ける。
- ②準備 生徒 ・ノート  
教師 ・「日本経済新聞」「読売新聞」「毎日新聞」「上毛新聞」の記事のコピー  
・9月28日(日)の新聞 7紙

### (5) 展開

学 習 活 動	時 間	支 援 ・ 指 導 上 の 留 意 点	評 価 項 目
1 本時のねらいを理解する	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいを板書する。</li> <li>・同じ事件でも新聞によって記述が違うことは、生</li> </ul>	【観点】(方法)

		徒自身に気づかせる。 ・「面」「社説」「見出し」「リード」「コラム」などの、新聞についての用語を指導する。 新聞を使いながら説明する。	A 内容を把握 するには5W 1Hの方法が 便利なことを 知り、その方 法で読解を進 めようとして いる。また、 新聞によっ て記述が違 うことに気 づいている
2 「できごと」を正しく理 解したり、分かりやすく 表現したりするには5W 1Hを意識することが必 要だと再認識する。	10 分	・5W1Hについては小学校で学習しているので、 簡単に確認をする。 ・木曾御嶽山の噴火の記事を利用して5W1Hにま とめる練習をする。	
3 新聞記事を5W1Hに 当てはめて内容を理解す る。	15 分	・4紙の新聞記事のコピーを用意する。 1紙だけ内容が異なるので、それは配布しないで、 2紙目のまとめで利用させる。	
<p>【予想される生徒の反応】と〔その支援〕</p> <p>【Cの反応】2つの犯罪の区別がついていなくて、5W1Hの1つの表にまとめようとしている。</p> <p>〔Cへの支援〕Whenに着目させ、2つの表にまとめた方が理解しやすいことに気づかせる。</p> <p>【Bの反応】新聞記事を5W1Hに当てはめている。1つの記事に2つの犯罪が書かれていることに気づいて、5W1Hの表にまとめている。</p> <p>〔Bへの支援〕同じ事件のことが書かれてあるもう1紙を読んで5W1Hの表にまとめさせる。</p> <p>【Aの反応】2つの犯罪を別々に5W1Hの表にまとめている。新聞社によって記述が違うことに気づいている。</p> <p>〔Aへの支援〕記事を読むときに気をつけることについて書かせる。</p>			B 内容を把握 するには5W 1Hの方法が 便利なことを 知り、その方 法で読解を進 めようとして いる。  【読むこと】 (記述)
4 5W1Hの表にまとめ たことを発表する。	10 分	・1つの記事の中に2つ(3つ)の犯罪が書かれて いることに気づかせる。 ・新聞社によって記述が違うこともあることに気づ かせる。新聞記事にも間違いがあることに気づか せる。一方で、新聞記事に対して懐疑的になりす ぎてもいけないので、生徒の反応を見ながら加減 する。	
5 本時の学習を振り返る	5 分	・本時の学習を振り返らせる。 ノートに書かせ、数人に発表させる。	

(6) 成果

○新聞の構成を理解することができたことにより、新聞の読み方が効率的になり、内容をとらえやすくなった。○同じ事件でも、記事の書き方によりとらえ方に大きな差が出てくるのが分かり、言葉の使い方(選び方)が重要であることを理解することができた。

(7) 課題

○4紙を使って読み比べたが、生徒の読み取りに対する一斉での詳しい確認が読賣新聞だけになってしまったので、他の新聞を基にまとめていた生徒にとってはわかりづらかった。  
○御嶽山噴火の記事の方が生徒の興味・関心がより高まったと思われる。記事の選択が大切。

【総合的な学習 : 第2学年授業実践】

○新聞記事を切り抜き、それに対するコメントを書いた。作品は廊下に掲示して互いに読み合えるようにした。生徒がどんなことに興味・関心を持っているのかが分かり、生徒理解に役立った。



【社会科 : 第3学年授業実践】

(1) 目標 義務投票制について考察し、日本の選挙の課題について積極的に考えることができる。

(2) 準備 生徒 教科書、ノート

教師 教科書、ワークシート、パソコン、テレビ

(3) 展開

学習 過程	時間	学習活動	支援・指導上の留意点 (◎) (○)	
つか かむ ・ た て る	12分	1. 前時の復習をする。 2. 現在の選挙制度の課題をつかむ。	○前時の復習や選挙に関するクイズなどを紹介し、関心を高めさせる。 ○新聞の投書から棄権が多いことを読み取らせる。 ◎年齢別の投票率についてのグラフを提示し、特に若い世代の投票率の低下について触れる。 ○投票率を上げるための方策を教科書から探したり、教科書にないものを考えさせたりする。	
た し か め る	13分	3. 義務投票制について資料から読み取り、それについて反対の意見を考えてみよう。  *予想される生徒の姿 ◎3つすべて考えらる。→ ○1～2つ考えられる。 △全く書けない。	○義務投票制の良い点について資料から読み取る。 ○読み取った良い点に対して、反対意見を考えさせる。  それらに対する指導・支援 ◎黒板に書かせたり、次の課題に取り組ませる。 ○黒板に書いてあるものを参考にさせる。 △個別指導をし、考えるヒントを与える。  ○どれくらい書けたか確認し、発表させる。 予想される生徒の反応 ①世界で約30カ国がこの制度を取っている。 →ほか約160カ国はこの制度を採用していない。この制度がなくても高い国はある。 ②投票率が上がり、より多くの人々が政治に参加することになる。 →多くの人々が政治に参加しても、いい加減な投票が増えてしまうかもしれない。 ③投票することは国民として当然のこと(義務)である。 →そうではあるが、選挙は長年にわたる努力で獲得された権利であり、自由に自分の意志で行くべきものである。	◎義務投票制について複数の視点から考察し、日本の選挙の課題について積極的に考えることができる。 (ワークシート・観察)  ○義務投票制について考察し、日本の選挙の課題について積極的に考えることができる。 (ワークシート・観察)

10	義務投票制の是非について考える。	
	4. 義務投票制度の是非について考える。	◎個人で考えた後にペアで交流させる。 ○挙手により全体の傾向をつかみ、何人かの生徒に発表させる。 ○なぜ日本は義務投票制ではないのか？考えさせる。
15分	5. まとめ（振り返り）選挙について学んだことをまとめる。	○まとめた文章を新聞の投稿欄に送ることを知らせ、書くことについての意欲を高めさせる。

【特別支援学級授業実践】

○子ども向けの面（上毛新聞（風っ子）等）を利用してキーボードの練習。クロスワードパズルを解く。英会話の学習。生徒が興味を持つ記事が載っていること、漢字に読みがながふってあること、等の理由により、利用しやすかった。

### 3. 新聞の置き場所と整理の方法

5日間分は、生徒玄関前に置いた。新聞社ごとに分けておいた。

NIE担当教員が選んだ記事を赤色マーカーで囲んで掲示した。

6日以上前の新聞はコンテナに入れて図書室に保管し、生徒がいつでも利用できるようにした。



生徒玄関前に設置



読んでほしい記事を掲示



新聞ごとに分類

### 4. 実践の感想と今後の課題



休み時間に読んでいる生徒達

【成果】

授業で学んだ後で書いた意見文が新聞に載った生徒は15人もいた。

このことにより、書いた生徒はもちろんのこと周りの生徒も新聞の意見欄までよく読むようになった。

新聞を読んだことがなかった生徒が授業で読んだことにより、新聞に興味を持つようになった。

【今後の課題】

- ・新聞の掲示や保管を教師がやっていたので、次年度は委員会の仕事として、生徒中心で進めていきたい。
- ・1年目は新聞を4ヶ月間、7紙ずつ配達していただいたが、2年目は配達計画を見直す。
- ・コンテナに収めた新聞を利用した後の返し方が雑になってしまい、次に利用しづらくなってしまったので、何度も利用できるような保管の仕方を工夫する。
- ・生徒からのアンケートの内容と回数を改善し、実態把握をよりよくできるようにする。

# 新聞（情報）を活用しながら 思考力・表現力の向上を図る取り組み

昭和村立昭和中学校 教諭 高井 雪絵 岡田 秀久 秋元 秀文  
登坂 俊介 中島 康男

## 1 実践の概要

NIE 実践校として2年目は、昨年度の反省を踏まえて取り組みの改善を図った。  
具体的な実践として、次の5点の取り組みを行った。

- (1) NIEコーナーの設置
- (2) 各教室へ、新聞配達 → HRの時間に日直が読む
- (3) 新聞切り抜き記事の掲示
- (4) 「いっしょに読もう！作文コンクール」への参加
- (5) 国語・社会での授業実践（指導案の作成・研究授業の実施）

### ① 社会の実践に関して

授業実践の1つ目は、昨年度と同様に新聞記事を授業に取り入れやすい3年生の社会科公民で行うことにした。時期として、昭和村で行っている教育研究会（村内の教員全員が集まったの授業公開）があったため、10月の中旬に実施した。そして以下のように、授業をNIEと関連付けた。

今回の授業は「市長になって考える」である。政治の導入部分で「政治に関する興味・関心」を高める事が、大きなねらいである。市長として4つの用途の違う施設の建設を市長として提案するために、新聞記事を用い現実からかけ離れるような提案にならないようにした。問題点や利点について、新聞記事を根拠に「現実にあった出来事」に基づいた話し合いを行い考えを深めあうことで、より具体的な提案を行うことができるようになることを考えた。また、導入や終末に、身近な群馬県の新聞記事を用いることで、「よりよいまちづくり」へのイメージを膨らませることができ、興味や関心を高める事に繋げることができると考え授業を展開した。

### ② 国語の実践に関して

授業実践の2つ目は、昨年度と同様に1年生の国語で行った。1年生は、職場見学を毎年11月中旬に実施している。その職場見学を受けて、国語の授業で職場見学新聞を書かせている。昨年度は、新聞を参考にした効果的な見出し作りを実施した。昨年度の取り組みを受けて、今年度は同じ単元ではあるが、授業の展開を変更した。そして以下のようにNIEと関連付けた。

今回の単元である「多角的に考える」学習を行うにあたり、同じ出来事を記事にする際、新聞によって多角的な見方や考え方があることに気づかせたいと考えた。そのためには、新聞を読み比べるという活動が有効であると考え、今回の学習を設定した。また、新聞記者の取材や考えによって記事内容にも特徴が表れるということも今回の学習で気づかせた。新聞の読み手としても一つの新聞記事だけで判断することなく、他紙と読み比べて自分の解釈をもつということも将来的に大切になるだろう。今回は新聞を書く活動だが、読み手に分かりやすく伝える工夫を、実際の新聞から学ぶことは意義あることと考え、実際の新聞を活用した学習を導入段階で設定した。

## 2 新聞の置き場所と整理の方法

9月～12月までの4ヶ月間、7紙の新聞を1紙ずつ提供していただいた。

- ① 学級数が7学級あるので、各学級日替わりで、朝その日の新聞を広報委員が教室に届け、生徒が休み時間等に新聞を見られるようにした。
- ② バックナンバー1週間分は、NIEコーナーに保管しておき、1週間経った新聞については、第2図書室へ持っていき、全て保管して生徒がいつでも見られるようにしておいた。

## 3 実践の内容

### ① 【HRでのスピーチ】

朝、広報委員が届けた新聞を、休み時間の間に読み、帰りの会に発表する方法をとった。発表がしやすいようにマニュアル（①何新聞②どのような見出し③どのような記事の内容④この記事を選んだ理由⑤記事を読んだ感想）を作成し、1分間程度で発表できるようにした。

### ② 【新聞切り抜き記事の紹介】

広報委員会と図書委員会の半数がチームを組んで各学年ブロックに分かれ、各月の1面記事をスクラップして紹介する活動を行った。11月・12月の出来事については、集会の時間に各学年ごとに記事の内容を紹介した。

記事を紹介した後、各学年の階に掲示をした。足を止めて記事の内容に興味をもって眺めている生徒もいた。



「 記事の紹介 」



「 切り抜き記事の掲示 」

### ③【作文コンクールへの参加】

NIE主催の「いっしょに読もう！作文コンクール」への参加を3年生に促し、夏休み中の課題として出した。

本校の生徒1名が、奨励賞に選ばれ、上毛新聞でもインタビュー記事が掲載された。

### ④【授業実践】

#### 【社会：3年生】

授業の視点

市長としてグループで考える場面で、それぞれの提案に対する利点・問題点に関する新聞記事を資料として活用したことは、生徒の発想を広げる教材として有効であったか。

- 1 単元名 「現在の民主政治」  
市長になって考えてみよう～企業の跡地利用～

#### 2. 本時の学習

(1) ねらい：「市長になって考えてみよう」という学習活動を通して、政治への興味・関心を持つ。

#### (2) 展開

過程	学 習 活 動	時間	学習への支援・留意点	評 価 項 目
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「県地価調査・吉岡15年ぶりプラス」の記事を読む。</li> <li>○なぜ、地価が上昇しているのか理由を考えて発表する。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習への動機付けにするために、新聞記事の読み取りから、吉岡の地価が上昇したことを理解させ、その原因について考えさせる。</li> </ul>	
<b>本時の学習</b> <b>地価が上昇するような、魅力的な市づくりを市長になって考えてみよう</b>				
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習プリントをもとに、本時の学習の流れを説明で聞く。その後「A市のデータ」と「住民の声」を読み、場面を確認する。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「A市のデータ」と「住民の声」に関する場面設定の用紙は事前に配っておき、事前に割り振られたグループ分けに基づき「提案の良いところ」を考えておく。</li> <li>○対立と合意、効率と公正の見方や考え方を活用できるように、事前に話をし、確認する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ学習</li> <li>①新聞記事を読み取り、この提案の問題点を挙げる。</li> <li>②問題点をふまえて付箋に個別で提案を書く。</li> <li>③KJ法で個人の意見を交換、整理をしてまとめる。</li> <li>④プラス面の書かれた新聞記事を各グループに配布し、司会者が読む。</li> <li>⑤発表用の原稿をまとめる。</li> <li>⑥グループごとに提案する。</li> </ul>	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ活動がスムーズに進行するように進行表を提示する。</li> <li>○話し合いが活発に進むように、グループごとに記録者と発表者を決めさせておく。</li> <li>○各班に、各提案の問題点を記した記事を配布し読み取れるようにする。読み取りやすくするために重要な部分は線を引いておく。</li> <li>○机間巡視を行い、案が出にくい生徒・班については、アドバイスをを行う。</li> <li>○よりよい発表ができるように、発表マニュアルを事前に配布して、マニュアルに沿った発表ができるようにする。</li> </ul>	

	○発表を聞き、各自A～Dのどの提案に賛成するか、考えをワークシートにまとめる。 ○考えを、A～D各1名ずつ発表する。	10	○机間巡視をして、発表者を事前に決めておく。 ○正解は特になく、オープンエンドとする。	
まとめ	○「吉岡の地価上昇」の新聞記事を読む。 ○より良い町作りには、様々な意見や立場を考慮しなければならず、政治が住民の生活と密接につながっていることを理解する。 ○本時の感想を書く。	7	○新聞記事を読み、住民のニーズに合わせた町作りをすることで、人が集まることを、より身近な例から具体的に理解することができるようにする。	○政治に興味・関心を持ち、(◎身近な問題にもふれて)本時の感想を書くことができる。(活動の様子・ワークシート)

成果◎と課題●

◎架空の市の事を考える活動であったが、考える上での資料として新聞記事を活用することで、より現実的で身近なものとして捉えることができていた。

●新聞記事の言葉が難しく、正しく読み取れているか正しく活用できているか、疑問が残った。



「提案内容を考えている様子」



「市長として発表している様子」

【国語：1年生】

授業の視点

グループごとに新聞を比較して話し合わせたことは、同じ記事でも新聞によって多角的な見方があることを気づかせる上で有効であったか。

1. 単元名 多角的に考える
2. 教材名 私のトップニュースを書こう
3. 本時の学習

(1) ねらい

- ・新聞を読み比べ、同じ出来事でも新聞社によって多様な見方があることに気づく。

(2) 展開

過程	学習活動	時間	支援・指導上の留意点	評価項目 (方法)
導入	1 本時の学習のねらいを確認する。 ○新聞社になったつもりで自分の新聞の特徴をPRしよう	10	・他の新聞社の記事と比べることで、自分たちの担当した新聞の特徴(伝える工夫)を見つけることを知る。 ・新聞を構成している要素を知り、比較の観点である「見出し」「写真・図」「リード文」「記事内容」を確認する。	
	2 グループで同じ内容の記事を観点毎に比べ、気付いたことをホワイトボードにまとめる。		・4人グループで2人組を作り、「見出し・リード文」「写真・図」担当と「記事内容」担当で役割を決めて話し合いながら、気付いたことを付箋紙に書き出し貼らせる。途中で役割を変える。 ・「見出し・リード文」「写真・図」担当はカラーの新聞で、「記事内容」担当は比較する部分に線を引いた白黒の新聞で比較する。 ・編集長を中心に話し合いを進め、貼られた付箋の内容をまとめて記録係がホ	○同じ内容の記事を読み比べ、新聞によって多様な見方があることに気づく。 ◎同じ内容の記事を読

展 開	20	ホワイトボードにPR内容を書く。 <b>【予想される生徒への手立て】</b> ・机間支援で使われている言葉の違い、受ける印象などについて考えさせる。 ・〈見出し・リード文〉赤で「死者」という言葉、「具体的数字」と「多数」という言葉の印象、擬音語など。「伝えている内容」の違いに着目させる。 〈写真・図〉青で「何を写しているか」それはどんな事を伝えようとしているのか。 〈記事内容〉黒で「取り上げている内容」の違いに着目させる。その新聞社にしかない特徴的な記事に着目させる。	み比べ、記事の内容や言葉に着目した見方で、より多くの工夫に気づくことができる。  〈発表内容、学習プリント〉
	15	・ホワイトボードを黒板にはり、新聞の違いについて観点毎に整理して発表する。 ・新聞によって同じ記事でも多様な見方があることに気付かせる。	
終 末	5	・学習プリントに本時でわかったことをまとめる。 ・自分たちが新聞を作る際の参考にしていくことを告げる。	

成果◎と課題●

◎今回、様々な新聞社が本校に新聞を配布してくれているが、読み比べるという経験は少ない。比較の観点（見出し・リード・写真・記事）でそれぞれの新聞の特徴を見比べることで、生徒たちは同じ記事でも見方やとらえ方が違うことに気づけた。

●気づきの活動時間にもう少し、ゆとりを持たせたい。そのためには前半の教師の指示部分をいかい効率化するかということが課題になった。さらに、付箋をまとめる作業も、言葉をまとめて伝えたいことを表現させるので、時間がかかった。中心活動への時間的確保と適切な指示の大切さをあらためて痛感した。



「新聞を読み比べ比較している様子」



「できあがった新聞」

#### 4 実践の感想と今後の課題

実践2年目となり、主題を継続させていく中で、思考力や表現力を昨年度以上に向上させていくための取り組みを行った。そこで、以下のような成果と課題を見つけた。

成果としては、日直1分間のスピーチと、広報・図書委員が、新聞切り抜き記事の紹介を行ったことで、新聞を読まない生徒も、必然的に新聞に触れる機会を作ることができ、興味を持たせることができた。また他の生徒に分かりやすく新聞の内容を伝えるためには、どうすれば良いか考えさせることで、思考力や表現力が高まったと考えられる。授業実践は、国語も社会も共通して、新聞を複数読み比べる活動を行った。読み比べるといことは、新聞をより多角的・多面的に見ることができ、思考力が深まることに繋がった。

課題としては、昨年度と同様、現在はインターネットが主流になり、最新の情報をパソコンやスマートフォン等で簡単に手に入れられる時代である。その点を考慮に入れると、子どもたちの新聞離れは、これからも進んでいくことが予想される。その面で、子どもたちにどのようにして新聞の良さを伝えていくかが、今後の課題となるであろう。

2年目の取り組みとして、昨年度以上に活動を充実させることができ、新聞を有効に活用することができたと思う。また、この取り組みから「子どもたちが、新聞を読むようになった」と保護者から意見を聞くことができた。NIEとしての取り組みが、子どもたちにとって価値のあるものと考え、本校でも継続して行っていききたいと思う。

# 「図書委員会から発信～NIEに取り組む」

群馬県立藤岡中央高等学校 学校司書 太田 克子  
教諭 澁谷 瑞恵

## 1 研究テーマ、実践の概要等

### (1) 研究テーマ

平成26年度より2年間 NIE 実践校として指定を受け、図書委員会を中心とした活動を考え実践してきた。指定校1年目は、多くの方々からのご指導・ご協力をいただきながら、試行錯誤した一年であった。

①生徒が、新聞をとおして社会問題に自ら関心を持ち、自分の意見をまとめたり表現したりする力を養う。

②新聞に触れることで、言語活動の活発化を図り、物事を多面的・柔軟に捉えるための一助とする。

以上の2点を柱として活動を行った。

### (2) 実践の概要

本校は、1学年6クラス計18クラスの文理総合学科・数理科学科からなる学校である。進学する生徒が大半を占める。3年生になって小論文に取り組む生徒が殆どであるが、1年次より社会に対する目を向けていくことの大切さを生徒達には伝えていけたらと考えており、好機ととらえて実践した。

## 2 実践の内容

### (1) 図書館

#### ① 図書委員会活動

ア 上毛新聞社小泉藤岡支局長による 講演会

イ 校外施設の見学

- ・ 読売新聞社
- ・ 世界遺産(高山社跡)

ウ 図書委員会活動

- ・ 毎月の記事まとめ
- ・ 地区研究発表大会「世界遺産」
- ・ 新聞切り抜きコンクール優秀賞受賞
- ・ 新聞クイズ
- ・ 新聞を使った「としょかんワーク」



新聞記者による講演会(定期的に4回開催)  
新聞について研修



毎月の記事を要約して掲示



新聞社工場見学



高山社（世界遺産）見学



新聞切り抜きコンクール作品制作



新聞クイズ正確に読み取る  
(読書週間イベント)

同じ日の新聞を人数分用意して、予め多方面から作成したクイズで正確さと速さを競う



まんがを文章化

図書委員会ではワークをします。新聞の4コマまんがを文章で表現しました。

## ②教育支援活動

### ア 環境整備

- ・ 展示(新聞記事と写真ニュースと図書)  
ノーベル賞 自然災害 特定秘密保護法 集団的自衛権 憲法
- ・ 掲示 新聞のしくみを知ろう
- ・ 本日のトピックス掲示

### イ 学習支援

新聞及びインターネット(新聞記事サイト)を提供し学習支援サービス

- ・ 大学受験小論文対策や合格後の課題のためのサービス
- ・ 授業でニュースをスピーチするためのサービス
- ・ 授業のための新聞サービス(生徒・教員対象)



いつでも自由に新聞を



新聞と写真ニュースと図書



今日の記事は何か?  
見出しだけ  
新聞各紙を比べ読み



(2) 各教科等での取り組み

- ① 国語科 国語総合の古典で新聞制作 漢文学習後、「新聞から四字熟語を探そう」という内容でグループ学習

\*国語総合 授業実践 (研究大会研究授業)

日時 平成26年12月4日(木)第五校時

クラス 1年5組 (男子19名 女子20名 計39名)

指導場所 1年5組 教室

1 単元名・教材名

随筆を楽しむ 『徒然草』『丹波に出雲といふ所あり』(第一学習社『高等学校 国語総合』)

2 考察 (省略)

3 学習指導目標

①古文を言葉のきまりに従って正しく読むとともに、適切な口語訳を行わせる。

②作者のものの見方を現代の問題に適用させ、その考え方を理解させる。

4 指導計画(五時間計画)

第1時限 本文の音読 語句の確認 第2時限 口語訳の完成 文法的事項の確認

第3時限 内容読解 第4時限(本時) 内容確認 新聞制作 発表 第5時限 新聞制作発表

5 本時の学習指導

(1) 目標

①「丹波に出雲といふ所あり」全体の話を理解する。

②新聞制作のグループ学習をとおして、読みを深めるとともに表現力を養わせる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価規準	時間
導入	1 前時の復習 2 本文の音読	1 「丹波に出雲といふ所あり」の内容が理解できているか。 2 内容をとらえながら隣同士で読むよう指示する。	1 全体の口語訳を行うことができたか。ノートに口語訳を完成させてあるか。 【関心・意欲・態度】 2 話の内容を確認しながら、音読することができたか。 【読む能力】【聞く能力】	7分
展開	1 「徒然草」新聞制作について ①新聞について ②新聞作りの手順を知る。 ③グループ毎に、『徒然草』新聞をどのように作成するか編集会議を行う。 2 新聞制作を行う。 3 グループで仕上げた内容を発表する。	1 新聞制作の目的・意義について説明する。 ①新聞一面の構成について、新聞社講演会の内容を振り返る。 ②新聞づくりの方法を説明し、イメージを持たせる。 ③自分たちが記者になって、「丹波に出雲といふ所あり」の内容をまとめることを確認させる。 2 制作がスムーズに進み、内容が逸れないように机間巡視を行い助言する。 3 グループ毎に制作した新聞を発表させる。	1 新聞制作の意義を確認することができたか。 【関心・意欲・態度】 ①新聞一面の構成を確認できたか。 【知識・理解】 ②新聞作りの手順を理解できたか。 【知識・理解】 ③グループ毎に編集に関する話し合いを持てたか。 【話す能力】【聞く能力】 2 積極的に新聞制作に取り組むことができたか。 【関心・意欲・態度】 【書く能力】 3 他の人の意見を聞いて、自分の意見との相違を考えることができたか。 【話す能力】【聞く能力】	40分
まとめ	1 本時のまとめを行う。 2 次時の内容確認	1 本文全体の内容を確認すると共に、新聞制作について振り返る。 2 次時の内容を確認させる。	1 本時の内容を理解できたか。 【知識・理解】 【関心・意欲・態度】	3分

6 評価の観点

①「丹波に出雲といふ所あり」について、全体の話が理解できたか。

②グループ学習に積極的に取り組み、読みを深めつつ新聞制作を行い、自分の考えを表現することができたか。

4人グループで「徒然草新聞」を制作



制作した作品

内容のまとめ



4コマ漫画



特集記事



② 地歴・公民科

新聞を読み、要約・感想の記入  
夏季課題としてニュースを分野別にし、まとめる。



**現代社会(1年)**  
○夏休み課題  
多方面の分野に渡り、記事の見出しと要約を書いて提出した。  
○5W1H  
記事から5W1Hを抜き出した。  
○世論をつくる  
記事を要約して自分の意見を記入した用紙にクラスの別の生徒複数に意見を記入してもらう。客観的な意見をもつ演習をした。



**国際政治(2年)**  
新聞のつくりを知り、内容を再構成して新聞紙面にまとめる。  
【目的】  
・新聞の見方を知る  
・読む習慣をつける  
・時事問題に常に  
関心を持つ

③ LHR 1学年 「新聞社講演会」学期に一回「出前授業」(計3回)



1学期「震災の取材に行って」  
(朝日新聞社)



2学期「新聞でまなぶ」  
(朝日新聞社)



3学期「新聞と進路」  
(読売新聞社)

4 実践の感想と今後

指定校1年目、図書委員会の生徒を中心として活動を行った。1学年では職員の協力があり、総合学習や社会科での取り組みができた。活動したことで、新聞に親しみ社会の動きにも関心を持つようになった。来年度は、図書委員をはじめ教科での取り組みもより積極的に実践・支援していきたい。

# 新聞活用が授業を変え、 生徒に意識の変化が生まれたNIE

群馬県立西邑楽高等学校 教諭 齊藤 敏明

## 1 実践の概要

本校は、平成17年度と18年度に指定校として実践を行った。今回は2度目の実践となり、9月から毎月、4紙を購読し、全学年を対象とした。今年度の実施教科は国語科、地歴科、公民科、家庭科で担当者が独自の工夫と方法で取り組んだ（なお、次年度は全教科へ広げる予定である）。

普段、新聞を読む習慣のない生徒には、教室に新聞を持ち込んでの授業に驚きと新鮮さを持って受け入れられていった。変化に富む授業形態に目の輝きが生まれ、新聞への興味・関心を持つようになった。また、新聞記事に対する意見や感想のスピーチに生徒の意外な一面を見ることも出来た。それは、進路選択や進学先に対する助言にも役立つこととなった。以下、キャリア教育の側面をもったNIE事業の報告である。

## 2 今年度の目標

担当者会議で話し合い、以下の目標を立て、授業の年間計画に無理のない範囲で各自が創意工夫して実践することとした。

- (1) 社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）の育成を行う。
- (2) 新聞を活用することで情報収集能力、情報の理解力、情報の活用能力を高める。
- (3) 新聞で得た知識に基づいて1分間スピーチを行い、表現力を培う。
- (4) 社会の動きに関心を持たせ、多角的な物の見方、考え方を育てる。
- (5) 生涯学習につながる知的好奇心の育成を図る。

## 3 新聞の置き場と掲示及び整理

月4紙の購読を受け、職員室及び各学年の階にNIE専用の机（NIEコーナー）を置き、常時閲覧できるようにした。過去分も取り置き、比較を出来るようにした。月ごとにローテーションを組み、新聞社を更新し、比較も出来るようにした。

重要記事に対しては、切り抜きし掲示を行った。生徒人数分が溜まったところで、生徒全員に配付し利用した。過去の新聞は、地歴・公民科の書棚に保管し、必要に応じて誰でも利用できるようにした。



掲示板の新聞記事を見る生徒（3階）



各階に設置したNIEコーナー（1、2階）

## 4 各教科・科目の実践内容

- (1) 国語科の実践と成果及び生徒の変化、課題等（川島 勉、秋山美幸）  
テーマとして「コラム演習」を設定した。

週1回、新聞のコラムを読み、そこに出てきた漢字の読みを確認し、語句の意味調べ、コラムの内容を要約し、感想を書かせ提出させる。

語彙力の養成や要約力の向上については長い目で見ていかなければならないが、時事問題に対して興味を持つようになってきた。この課題がなくても新聞のコラムを日常的に読む生徒が増えてくれればと思う。

- (2) 地歴科の実践と成果及び生徒の変化、課題等 (①川島三怜、②坂木雅啓、③齊藤敏明)

テーマとして「科目に関連する記事」のスクラップと発表を設定した。

- ① 日本史に関連する記事を読ませて感想を書かせた。授業中に関連する記事があれば、紹介した。

最近、日本史の新しい発見が記事になることもあるので、適宜生徒に紹介していきたい。

- ② 「世界史A・B」において、世界史に関わる内容の記事に限定してスクラップを作成させた。現代の世界で起こっている諸問題に目を向けさせることで、世界史の授業に対する興味・関心を喚起できたように思う。今後は授業の中においても記事を積極的に利用していきたい。

生徒に新聞記事を読ませることが一度しかできなかつたので、今後は、定期的にできるようにしたい。

- ③ スクラップノート作成、新聞記事による1分間スピーチ(感想)、週間報告の発行(毎週1回、各国に関する地理情報をその時の日付に合わせてB4判のプリントで発行し、解説した。また、ニュースダイジェストを上毛新聞から切り貼りし、時事的用語の解説も行った。年34回の発行を行うことが出来た)。

読み、書き、まとめ、表現する力が養成され、当初からは1分間スピーチにも回を重ねるごとに工夫が見られるようになった。時事解説をすることで、世の中の動きを理解できるようになり、教科書と関連させることで興味・関心を示すようになった。楽しみにしてくれる生徒も現れた。スクラップノートの計画的な作成が課題として残った。



国語科で取り組んだ『コラム演習』



地理の授業で配付した『週間報告』で、各国の地理情報と時事解説を行った



定期考査にも出題した週間報告

- (3) 公民科の実践と成果及び生徒の変化、課題等 (①田村佳則、②森田直樹)

テーマとして「新聞を読む」を設定した。

- ① 新聞記事のまとめと感想を書く。毎週授業担当が作成し、配付した。読売「談論風発」を読み、生徒も投書を書くつもりで感想をまとめた。

授業の冒頭で新聞記事のネット版をプロジェクターで投影し、当番の生徒は記事を読んで感想を述べる。記事の選択が生徒でなく、教員が行ったことが反省点で、今後は生徒自身に任せたい。感想は徐々に書ける生徒が増えてきたと感じられた。ネット版をスクリーンで見せることで、新聞が身近になったのではないだろうか。廊下に置いた実物の新聞も立って読む生徒が見受けられた。経済分野を学習するときに、日経新聞は大変役立った。



新聞記事のウェブ版をスクリーンに投影して発表する2年生の授業

- ② 「現代社会」の授業の導入において、授業と関わりのある記事を印刷・配付し、感想や意見を書かせる機会を設けた。

時事問題に対する興味・関心が高まったように思う。今後は、生徒自身が記事を選び、意見を交流させることができるような授業を目指したい。

#### (4) 家庭科の実践と成果及び生徒の変化、課題等（荒井絹代）

テーマとして「スクラップブック」の作成と発表を設定した。

家庭看護福祉の授業において、週に1回、福祉・子ども・病気などの新聞記事を生徒に配布し、ノートに貼らせ、感想を記入させる。そして、3カ月おきにクラス内発表を行った。

週に1枚の取り組みであるが、感想の少ない生徒が多く、やらされている感が強かった。しかし看護・介護系に進路希望を持つ生徒は、しっかり取り組めた。発表に関しては、なかなか自分の意見を皆の前で伝える機会が少なく、最初は声が小さく不慣れな様子であったが、回を重ねるうちに、良い発表になってきた。家で新聞を取っている生徒が少なくなっているため、印刷という形を取ったが、出来るなら、自分で記事を選ぶところから始めたい。



『スクラップブック』に記事を貼り、感想や意見を記入した

### 5 生徒のNIE実践に対する感想

- ・テレビでやっていないことを新聞では知ることが出来、勉強になった。
- ・朝は慌しく、テレビを見ることが出来なかったが、1分間スピーチが始まって、忙しくてもテレビをしっかり見ようと思えるようになった。
- ・関心が少しでもニュースに向くことや、普段、全くニュースを見ない人がいるので助かる。
- ・国内や世界の社会に関心をもつ人が多くなれば、よい社会にしようと思う人が増えると思う。
- ・家では新聞を読まないが、今何が起きているのか知ることが出来たので、ニュースをチェックしようという気になった。
- ・1分間スピーチをするために、朝ニュースを見るようになったり、先生が話す事に関心を持ったりするようになった。私は、普段ニュースを見ないので、ためになった。
- ・みんなの前に出て発表するのはとても緊張するが、得意になれたらいいなと思う。

- ・普段、新聞を読まないで、こういう時間に新聞を読むという機会があって、うれしい。ニュースについて、自分が思ったことを伝えるということは、とても大切なことだと思うので、こういう機会があって勉強になった。
- ・日頃、普通に生活している私たちの周りには、色々な事故、事件、良いこと、悪いことが満ちあふれていることを知った。それを自分でまとめて言うのは大変だった。大変だったが、もっとニュースを見ようと思った。
- ・普段、テレビや新聞を見ないので、この1分間スピーチによりニュースを見るようになった。また、自分が知らなかったニュースをクラスの人がスピーチしていて、こんなニュースもあったのかと情報を得ることが出来た。
- ・ニュースはよく見るが、人の意見を聞く機会がなかったので、1分間スピーチで、クラスの人への考えや見方が分かり、いい体験になった。
- ・意見を発表することは、社会に出る練習としてよかった。
- ・グループで話し合う時は、自分の意見に自信をもって発言しようと思った。
- ・社会で起きているニュースの解説はいいと思うが、生徒のスピーチで指定のないニュースだと、一時期起きたニュースばかりになってしまうので、そこを工夫してもらいたい。
- ・家だと新聞を読まないが、授業でやることで、今何が起きているのかを知ることが出来たので、ニュースをチェックしようという気になった。
- ・ニュースを分かりやすく解説してくれたので、ニュースは面白いと思った。
- ・毎日、毎日、新しいニュースが流れ、それを聞いていて、さらっと受け流すことが多いので、授業でしっかり理解できるのでありがたい。スピーチをするのは、緊張するが、将来につながるものでこれからも頑張りたい。
- ・1つの話題に対して、自分自身の考えがあるが、スピーチや解説で、みんなの意見を聞くことによって、また自分と違う考え方や見方がわかるので、「なるほど、そういう方向にも捉えられるのか」と、ついつい入り込んでしまった。自分の考え方や視野が広がるので、これからも続けていって、積極的に参加したいと思った。また、生徒との話し合いや意見の交換もよいが、先生の意見も聞けるので、それもまた、面白いところだなと思った。

## 6 次年度の取り組みとNIEへの期待

### (1) 次年度の取り組み

- ① 4月の段階から進路に合わせたテーマを決め、スクラップノートの作成を継続的に進めること。とくに、3年生に対しては新聞記事を利用し、小論文の指導に力を入れたい。
- ② 新聞記事を利用した壁新聞の作成や各種コンクールへの応募を行うこと。
- ③ 学期ごとに他教科との連絡調整と情報交換を行うこと。
- ④ 公民科で新聞記事から刑事裁判を探し、模擬裁判の実践につなげること。
- ⑤ 教科間でのコラボや図書館司書教諭、司書専門員からの提案を受けた協働での授業づくりを行うこと。

### (2) NIEへの期待

本校生徒の気質は、校訓が示す「明るく、強く、美しく」を体現している。朝10分間の読書の時間を通じて、落ち着いた学校生活を送っている。規律を重んじると共に、素直で、人に対するいたわりと思いやり、気立ての優しさを備え持つ。したがって、教師側の生徒への関わりと授業の創意工夫でいくらかでも伸びる可能性を持っている。多忙感のある学校現場であるが、双方向授業を目指すより多くの先生方にこの事業を活用してもらい、生徒の変容を楽しんでもらいたいと思う。

NIEの実践は、立体的な双方向授業を形作り、付加価値の高い授業構成となり、本校にとって創立40年の飛躍の一助となっている。

# 「NIE活動を通じたメディア・リテラシーの育成」

群馬県立館林商工高等学校 教諭 阿久津延正 藤巻 真

## 1. 実践の概要

本校では、平成24年度から引き続き平成26年度も「NIE実践指定校」として、地歴・公民科で新聞を使った授業実践を行った。2学年の「現代社会」と3学年の「政治・経済」の授業において、NIE実践をした。

## 2. 実践内容

(1) 2学年 「現代社会」(必修科目:3単位)

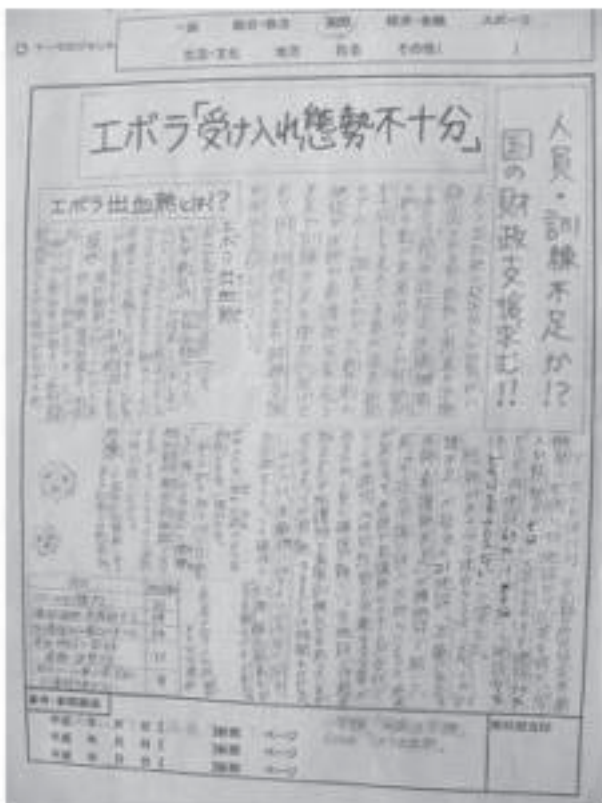
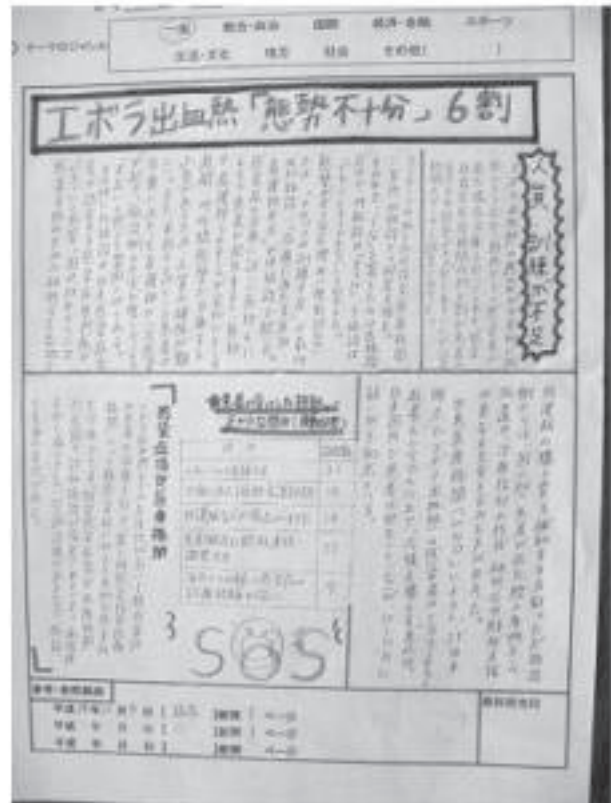
担当:阿久津 延正

現代社会では、「メディア・リテラシー」(情報を取捨選択し、活用する力)を養うことを目的として活動を行ってきた。

### ①活動内容

4月	高度情報社会についての学習(メディア・リテラシーの必要性)
7月 ～ 9月	「新聞」についての学習(新聞の構成、見出しのつけ方、記事の書かれ方など) News&Speech! ①興味のある新聞記事を見つける ②読む ③Speech!の原稿作り 記事のキーセンテンス・要旨・記事からわかる現代社会のすがたをまとめる ④発表
12月 ～ 1月	新聞作り ※1 ①新聞の構成の学習(見出し→リード→本文 逆三角形の構造) ②各自で記事(ネタ)集め ③オリジナル新聞の作成 ④提出
2月	⑤課題研究発表会報告

※1 生徒の作品



②担当者の感想

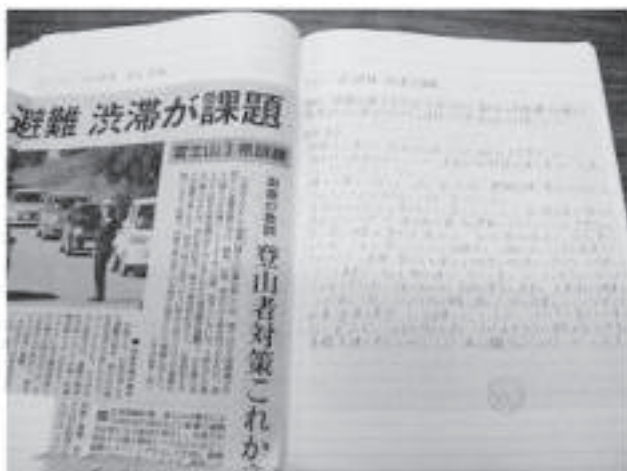
テーマを設定する最初の段階では、難しそうにしている生徒が多く見受けられた。情報を集めるだけでなく、まとめることの活動を通じて、情報に対する見方、考え方が深められたように見受けられた。



①活動内容

4 月	【新聞についての学習】(新聞の構成、見出しのつけ方、記事の書かれ方など)
5 月	【新聞ワークシート学習】(新聞記事を読み、重要事項を読み取り、自分の意見を書く) 【新聞スクラップ学習】※2
6 月 ～ 10 月	①自分で興味のある記事を探し、ノートに貼る。 ②記事を簡潔に要約する。 ③記事についての感想や意見を書く。
11 月	【新聞制作】※3
12 月	①班編成、編集長の選定、新聞のテーマ設定
1 月	②担当記者の決定(政治、経済、社会、スポーツ、国際、社説、広告などから選ぶ) ③各自で記事(ネタ)集め ④編集会議(レイアウトの決定)→制作作業 ⑤新聞制作発表会※4
2 月	課題研究発表会報告※5

※2 生徒がまとめたノート



※3 生徒の作品



#### ※4 新聞制作発表会の様子



#### ※5 課題研究発表会報告の様子



#### ② 1年間の成果と課題（生徒の感想から抜粋）

- ・新聞作りは、はじめは嫌だったけど、やっていくうちに楽しくなっていき、いろいろな土地について知ることができて良かった。社会を見る目が変わった。
- ・新しい知識を得たり、新聞を自分で読み取ることで情報をまとめる力を養えたりと、とても充実していた。
- ・新聞作りは楽しかった。パソコンじゃなくて大変だったが、手書きで良かったと思った。今までは深く考えることがなかったが、新聞のスクラップなど新聞を使っていろいろな活動をしていくうちに関心を持つことができた。

### 3. 新聞の置き場所と整理の方法

昨年度からの課題であった新聞の保管スペースを今年度は、図書室にすることによって、学校全体で新聞を活用できるよう整理した。

なお、新聞棚は、工業系3年の建築コース「課題研究」にて製作し、活用している。

生徒が製作した新聞棚



新聞利用の様子



# 事実を正確に知り、経緯や背景を理解し、 自分の考えをまとめ、表現できる力を

——毎週1時間、新聞記事から学ぶ

群馬法科ビジネス専門学校 非常勤講師 曾我 祥雄

## 1. 実践の始まり

「最近の若者はちっとも新聞を読まない」「公務員を目指す以上、社会の出来事の基本的な知識は身に付けさせたい」学校関係者の間で、そんな話が出たのを機会に、群馬法科ビジネスの3クラス（公務員初級、警察官・消防、公務員上級）に、週1コマ（1時間）、年間で35～36コマ、「時事・作文」の教科が設けられ、私が講師として担当することになった。5年前のことである。

特にNIEを意識したものではなかったが、講師が新聞記者出身でもあり、授業では常に新聞紙面（記事コピー）を教材として使用した。まさにNIEの実践といえる。

## 2. 教材（新聞記事）の選び方

世界各国の動向から、国内の政治、経済、社会、スポーツ、文化と、一日の新聞に掲載される記事は実に多彩多様である。しかも日々、目まぐるしく変化している。その中から、どの紙面、記事を教材として選ぶか。

群馬法科ビジネスは「公務員を志す」高卒者（一部大卒者も含む）を対象に、公務員試験合格を目標とした専門学校である。そこで、教材を選ぶにあたっては、この目標に沿って、高卒者としての一般的な常識、加えて、公務員に必要な社会の仕組み、法や制度に関する知識、この2点の習得に役立つものを基準とした。

## 3. 新聞記事の多様な性格

新聞記事は前述したように、国内外の多彩なニュースの報道であると同時に、それぞれの記事の性格といった点でも実に多様である。出来事や事柄の第一報的なニュースに始まり、関連記事や続報、背景の説明や解説、さらにそれらに関する社説や専門家の意見紹介など。ビジュアル化を重視する最近、写真はもちろん、地図やグラフも多用されている。

新聞で報道される出来事や事柄を正確に理解し、それに対する自分なりの考えをまとめていくためには、単に一報的な記事を読むだけでなく、こうした多様な性格の記事にも目を通し、全体像をつかむ必要がある。最近の、安全保障や原発のように、きわめて重要な課題については、新聞によってそのとらえ方、論調が異なる場合が多く、複数を読み比べてみることも必要だろうし、全国紙（版）と地方紙（版）による違いもある。

## 4. 教材の製作・授業

上述した前提をもとに、これまでの授業で、では、実際にどのような教材を使用したかを振り返ってみたい。

まず、テーマとして①「1週間の出来事」と②「ある程度長期的なスパンでとらえられるテーマ」の2種類の新聞記事（コピー）を製作し、学生全員に配布した。

「1週間の出来事」は授業が週1回のため、当日の前の週の主な出来事をまとめた記事をコピー、その中から幾つかを取り上げ、解説する。②のテーマは、3年から、時には10年以上継続する問題で、しかも、現在でも新しい動きが再三、新聞紙上で報道されるものである。

## 5. 授業事例

1年間、35～36コマの授業では、実際にどのような記事が取り上げられたか、2014年の主なものは別表のとおりである。その中から、いくつかの事例で授業内容をもう少し詳しく見てみたい。

[1週間の出来事] から

### ① 島の土砂災害、御嶽山噴火

8月20日未明に発生した広島市北部の土砂崩れは、74人の死者を出す大災害となり、直近の8月26日の授業で取り上げた。発生を報道する紙面を示して事件の概要を確認するとともに、「なぜ多くの犠牲者が出てしまったのか」背景を指摘する記事コピーを全員に配布（写真①）。気象庁の警報等が最近目立つ「局所豪雨」に対応できていなかったことや、土砂災害防止法に基づいて都道府県が行う「警戒区域指定」が進んでいない実態を学んだ。

死者57人、行方不明6人という戦後最悪の火山災害となった御嶽山の噴火（9月27日）についても同様の取り上げ方をした。行楽シーズン土曜日の昼時というタイミングの悪さだけでなく、多くの活火山を抱えながら、自治体などの監視体制や登山者への情報伝達などの面での不備を指摘する記事を配布、理解を求めた。

### ② 羽生選手の強行出場

ソチ五輪で日本人唯一の金メダルを獲得したフィギュアスケートの羽生結弦選手が、11月8日、上海で行われたグランプリ（GP）シリーズで、演技直前の練習中に中国選手と激突、転倒して頭部に負傷を負った。しかし、羽生は頭に包帯を巻いた姿で試合に強行出場、何回も転倒しながらも2位に入った。

羽生は当時19歳。同世代のスポーツ選手として生徒たちの間でも知名度が高く、興味を引きやすいテーマとして取り上げた。

五輪王者の「不屈の精神」を伝える記事と、脳しんとうの怖さや、一つのリンクで同時に6人の選手が行う直前練習の危険性などを指摘する専門家の声を集め、強行出場は「無謀ではなかったか」とする翌日の紙面を合わせて教材として使用（写真②）、両方を読んだうえで全員に「羽入選手の強行出場、私はこう思った」という作文（400字）を書いてもらった。



御嶽山噴火災害では、続報や社説から指摘される問題点を学ぶ（写真①）



羽生選手のけがをおしての大会出場に様々な意見があることを知る（写真②）

学生たちのとらえ方は「すごい精神力で感動した」「将来を考え欠場すべきだった」「本人がやっていると知っているのだから」など様々。作文に対しては「一つの出来事に対しても、冷静な第三者、コーチやベテラン、それぞれの専門家など、いろいろな見方や問題点の指摘がある。それらを知ったうえで自分の考えをまとめて書く。結論は変わらなくても、文章の内容が重層的で深くなり、知識、考える力がつく」と、多角的な記事の読み方の大切さを述べた。

### [長期的なテーマ] から

新聞で取り上げられるニュースは、大きなテーマとなると、長い経過があり、その経過の中での新たな出来事として報道される。いずれも現代社会にとって懸案の重要課題ばかりで、当然、経過の概要を知っていなければ、今日報道されたニュースの意味を正確につかめない。取り上げたテーマ(表①)は、すべてそういった性格を持っている。

(表①)
<p>2014年の授業で取り上げた新聞記事(主なもの)</p> <p>[1週間の出来事]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車事故で高額賠償請求、万能細胞初の作製(1月)</li> <li>・PC遠隔操作事件初公判(2月)</li> <li>・サッカーの無観客試合、男児死亡でベビーシッター逮捕、ウクライナのクリミア共和国独立宣言(3月)</li> <li>・オバマ大統領訪日・日米首脳会談(4月)</li> <li>・認知症老人の行方不明相次ぐ、富岡製糸場が世界遺産に(6月)</li> <li>・集団的自衛権行使を閣議決定(7月)</li> <li>・広島で土砂災害・死者多数、西アフリカでエボラ出血熱流行・国内ではデング熱発生(8月)</li> <li>・御嶽山噴火・登山者多数犠牲に(9月)</li> <li>・LED開発の日本人3人がノーベル賞受賞、小渕優子経済産業相が辞任、拉致問題で北朝鮮特別調査委と日本政府との協議始まる(10月)</li> <li>・羽生結弦選手が練習で負傷・試合出場(11月)</li> <li>・衆院選・与党圧勝(12月)</li> </ul> <p>[長期的なテーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内政治の流れ(初の民主党政権から自民党復権・安倍政権の成立)</li> <li>・沖縄の米軍基地の実情・普天間飛行場移転問題</li> <li>・日本の領土問題(北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる動き)</li> <li>・宇宙開発の歴史(有人と無人)</li> <li>・司法をめぐる動き(冤罪、裁判員制度、検察審査会、死刑制度)</li> <li>・東日本大震災、残された課題(復興、除染、帰還、賠償、廃炉、最終処分)</li> <li>・エネルギー問題(再生エネルギー、原発再稼働)</li> <li>・臓器移植・再生医療(iPS細胞、STAP細胞)・生殖医療</li> <li>・地球温暖化(気候変動枠組条約COPと京都議定書)</li> <li>・核兵器をめぐる世界の動き(NPT、新START、北朝鮮)</li> <li>・少子高齢化・人口の都市集中</li> </ul>



3月には、東日本大震災発生当時の新聞紙面から、震災の全体像を改めて把握するとともに、直近の様々な報道から、現状や課題を学ぶ(写真③)

### ① 進む地球温暖化と対策

地球の温暖化問題では、3月、4月、11月と国連IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告書が相次いで公表され、新聞でも大きく報道された。また12月にはCOP20(国連気候変動枠組条約締約国会議)が開かれた。

ほかにも地球温暖化は国内外のニュースとして紙面に再三登場する。授業では、いつでも可能なテーマだが、同年はIPCC報告の際に取り上げた。教材としては、報告書の内容だけでなく、少なくとも京都議定書(1997年、京都で開催、温室効果ガスの数値目標を決めた)について説明する記事資料も用意し、経過の理解も図った。

### ② 少子高齢化と消滅市町村

5月に日本創生会議が、2040年には日本の市区町村の約半数が最終的に「消滅」する恐れがあるとする提言をまとめた。少子高齢化社会への新たな角度からの警告が報道され、話題となった。提言で

は「消滅市町村」のリストも出され、本県の南牧村が子供を産む若年女性の人口減少率がもっとも高いとされた。このようなニュースでは、全国的な傾向とともに、各県ごとの具体的な数値を示す地方面(紙)記事も欠かせず、双方を資料として配布することになっている。(ニュースによっては、東京・全国と地方面・地元紙の受け止め方が異なる場合がある)。

#### [テストと作文]

2～3か月に一回、各種の公務員試験や日本ニュース時事能力検定の過去問題等から、授業に関連した設問を選んでテストを実施。それまでに取り上げた記事の内容をどこまで覚えたかを検証するテストを行っている。

さらに「羽生選手の強行出場」の項で触れたように、複雑な背景や人々の受け止め方が異なるようなテーマについては、それに対する自分なりの考えをまとめ、表現(作文)することを学ぶため、随時、作文(400～800字)を書かせることにしている。「原発の再稼働 是か非か」(写真③)「臓器移植、私なら」「死刑制度について」などのテーマを取り上げた。

#### [ホームルームで]

こうした中で、本校は2013年度からNIE実践校の指定を受けた。それを機会に取り組みの枠を広げ、14年度は、講師の担当する上記の授業とは別に、対象のクラスで、毎朝ホームルームの時間に、NIEの一環として教室に設置されている各紙を日替わりで学生が読んで内容を紹介し感想を発表、それに対して担任が講評する。あるいは学級日誌に学生が注目した記事の概要を記入する欄を設けるなど、「新聞から学ぶ」教育に力を入れている。(写真④⑤)



教室に設置されている新聞を読む学生達

(写真④)



朝のHRにて記事の内容を紹介し、感想を述べる学生

(写真⑤)

## 6. 成果と課題

1年間の最終日には授業に対する感想、意見を無記名で書いてもらった。「普段から新聞を読んだりすることは少ないので、おかげで日本や世界で起きていることを知ることが出来た」「自分が漠然と思っていた視点とは違った視点から問題をみることができた」「これからは新聞やニュースなどをしっかり見て、自分の糧にできるように努力したい」など概して好評であった。

しかし、教壇の講師の話聞いて「勉強になった」という感想はあっても、では、自ら新聞を手にとって読むことにまでつながるかという、まだまだ心細い。

講師の側からすれば、たとえば最近のウクライナやイスラム過激派事件、国内でも所得格差や少子高齢化問題のような、経緯や複雑な背景のあるニュースについて、専門学校生にどこまでの理解を求めらるか。わかりやすい授業の進め方という技術的な問題も含め、講師に負わされた課題として残されている。

# 「保育士養成校におけるNIE実践保育者に必要な専門的知識を身に付けるために」

大泉保育福祉専門学校 保育科 主任講師 林 恵  
専任講師 八十田晶子

## 1. 実践の概要

本校は保育士・幼稚園教諭を養成する保育科と介護福祉士を養成する福祉科で構成される専門学校である。保育科は2年制昼間部のⅠ部と3年制夜間部のⅡ部が設置され、ほとんどの学生が卒業後は、保育所や児童福祉施設へ就職をする。入学生は高校を卒業した18歳の学生から40代までと広く、社会的経験や基礎学力にも大きな差がある。しかしながら保育や福祉について学ぼうとする意欲は高い学生も多く、授業へ真剣にとりくんでいる。

本校は昨年度からNIE実践校に指定され、新聞を取り入れた実践をおこない、一定の成果が明らかになってきた。例えば今まで新聞から情報を得ることをしていなかった学生が、抵抗なく日常的に新聞を読むようになったり、保育福祉関連の記事を確認し、授業で学んだ内容と関連付けて考えることができるようになったりしたことである。そのようなことから今年度も引き続き、NIEの実践に取り組むこととした。

## 2. NIE コーナー ～新聞の置き場所と整理の方法

### (1) 場所と管理

昨年から引き続き学生の休憩スペースである「学生ホール」(図1)に保管場所を設置している。配達された新聞は当日分を上段に、昨日分はその下の棚に置き、新聞社別に分けて保管し1か月ごとに廃棄した(図2)。また、表をマグネットで示し、どこの新聞社の新聞が配達されているかがわかるよう掲示した。学生は自由に読むことができ、一番上に切り抜き用のマットとカッターを設置し、当日分以外は切り抜きなどもしてよいこととした。切り抜いた残りを畳んで元の位置に戻すよう指示した。



図2.新聞ラック



図1. 学生ホール

A:配達される新聞社  
B:切り抜き用品  
C:当日分 D:昨日分  
E:過去分

### (2) 学生の反応と昨年度からの変化

昨年度は課題のために新聞を読むという印象が強かったが、本年度は年長の学生をはじめとして、授業前や空き時間に学生ホールで新聞を広げている学生を見ることも多くなった。また、処分する過去の新聞を確認すると、昨年度より切り抜かれたものが増えており、授業の課題以外でも自主的に記事を切り抜く学生がいることが確認できた。NIE 実践校と

して2年目となり、新聞の在り処が多く多くの学生に周知されたことや、1年前期での切り抜き課題が一部の学生の身に付き習慣化されたことで、このような変化が見られたのだと考えられる。

### 3. 実践の内容

#### (1) 文章表現【保育科1部1年生対象】

##### ① 実践の方法

文章表現は、保育者として必要な文章の表現を学ぶ教養科目であり1年生前期に設定されている。保育に関する記録の方法や保護者との文書のやり取りにおける表現などを学ぶが、保育福祉に関する情報を取り入れる態度を身につけるといった、学生の専門性を高めるための入り口の授業としての位置づけもされている。この授業の実践は昨年と同内容で実施した。

##### ○「私の選んだ新聞記事」(図3)

保育や福祉に関係した興味のある記事を切り抜き、重要だと思うところに蛍光ペンで印をつける。所定の用紙に貼り、概要を200字にまとめ、保育者としての観点からコメントを200字でつける。毎回授業の最後に10分ほどの時間を使い、各自探してきた記事を使って作成、その週のうちの提出をルールとした。

##### ○「グループでおこなう新聞記事のまとめ」(図4)

すべての学生のレポートを各回に束ねたものを閲覧しながら、グループでテーマを決め、関連する記事に解説を加えたものを模造紙にまとめた。模造紙に貼る記事は切り抜きそのものでもコピーでも可とし、解説は記事をまとめたものに加え、インターネットや書籍からの情報を加筆し、読み手がわかりやすくする工夫をするよう促した。出来上がったものは、様々な人が読めるよう大教室の後方に掲示をした。

##### ② 結果と課題

「私の選んだ新聞記事」は多くの学生が忘れることなく毎回提出をした。小さな報告のみの記事を選び、内容を繰り返し記述するようなものを提出する学生もいたが、多くの学生は読みごたえのある記事を選んで、熱心に取り組んだ。保育者の観点の記述について、最初は記事に関する感想が多かったが徐々に各自の意見を述べるものが多くなってきた。他の授業で専門的な内容を学んだことが反映された内容も多く、記事と自分の学習内容を

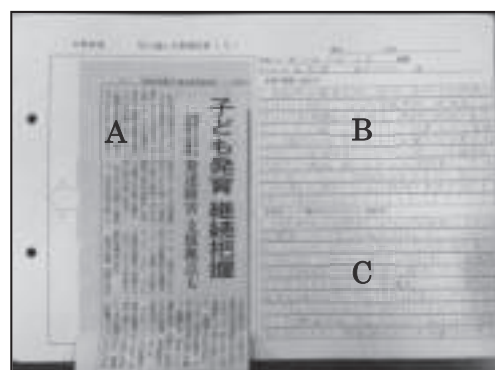


図3.「私の選んだ新聞記事」  
A 新聞記事 B 概要 C 保育者としての観点  
でコメント



図4.グループでの新聞記事のまとめ



関連づけて考えることが可能となった様子うかがえる。

「グループでおこなう新聞記事のまとめ」ではテーマに沿った新聞記事を収集することに戸惑った学生が多かった。「私の選んだ新聞記事」のレポート約 1200 枚とそれぞれ持ち寄った新聞記事などから構成したが、記事が 1 つしか見つからないというグループもあった。また、新聞を購読している家庭ばかりではなく、NIE コーナーの新聞を利用したり、友達に分けてもらったりしている場合も多く、利用したい記事をすでに他の学生が利用している場合もあった。新聞だけで構成するのではなく、書籍やインターネットからの情報を加え作成したが、実践の方法と目的を再考する必要があると感じた。例えば、初期の段階でテーマを決めグループで時間をかけて記事を収集するような方法や、一つの記事を中心に据え、より深く調べていく方法などが考えられるかもしれない。

## (2)家庭支援論【保育科 I 部 1 年生対象】

### ①実践方法

家庭支援論は、保育士養成課程において、社会資源（法、施策、関係機関、人的資源他）を学んだ上で、児童虐待、貧困、障害、育児困難、その他何らかの理由で家庭の機能が不十分な場合、児童及び保護者に対して必要な機能や役割が円滑に果たせるよう具体的な支援方法を学ぶ授業である。今回の公開授業では、新聞を通して児童虐待の現状について知り、児童虐待問題への対応を実際の虐待死亡事例を基に保育者としての「気づき」を養い、保育者は何をすべきかを考えた。

表 1. 新聞から児童虐待事例を考える～保育者は何をすべきか 授業の流れ（略案）

	授業の内容と資料
に児童虐待	要保護児童を含め、児童虐待についての振り返りを行う。また、社会資源としての関係機関についても確認する。
児童虐待の現状	児童虐待の現状を知る プリント 1. 上毛新聞 (26. 8. 7) 『児童相談所での児童虐待相談対応件数』 プリント 2. ①産経新聞 (27. 1. 1) 『児童相談所での児童虐待相談対応件数』 ②産経新聞 (27. 1. 3) 『児童相談所での児童虐待相談対応 4 類型の内訳』 (図 5) ③産経新聞 (27. 1. 4) 『虐待を受けた子どもの年齢構成と主な虐待者』 (図 6) ④産経新聞 (27. 1. 5) 『虐待死した子どもの年齢の内訳』
グループワーク	新聞記事を基にして、事例について意見交換を行う。 児童虐待に関してどのような要因が考えられるのか、問題を把握する。母親が抱える問題、家族が抱える問題、関係機関が抱える課題、その他の課題について検討する。 プリント 3. 上毛新聞 (26. 8. 31) 『A 町 3 歳男児死亡』 プリント 4. 上毛新聞 (26. 9. 1) 『A 町 3 歳男児死亡』 プリント 5. 上毛新聞 (26. 9. 7) 『A 町 3 歳男児死亡』
まとめ	全体のまとめ 保育士の役割の確認 プリント 6. 上毛新聞 (27. 2. 10) 『母が姉妹殺害か』

## ②結果と課題

新聞記事を用いた実際の事例を使用したことにより、学生の意見がより現実的で深い内容になった。学生からは「新聞記事には事実関係や背景が盛り込まれ、近くで起きている現実だと実感した。事例を具体的に学ぶことは大切だと思った」「事例を学んで、子どもの気持ちも保護者の気持ちも理解できる保育士になりたい」「児童虐待が身近で行われていることを感じ、今後保育者になった時にどのような支援を行う必要があるのかを考えることができた」等の意見が聞かれた。児童虐待死のリスクが高い乳幼児の児童及び保護者との関わりがある保育者は、児童虐待防止の重要な役割を担う。「気づき」の視点を養うために新聞記事を用いて事例を時系列で読みながら検討していくことで質の高い授業を行うことができた。今回は、共通の「気づき」の視点を養うために予め事例を用意して授業を行ったが、今後は、学生が中心となって新聞記事から事例を選択し、より深く議論をしていく方法等を検討していきたい。

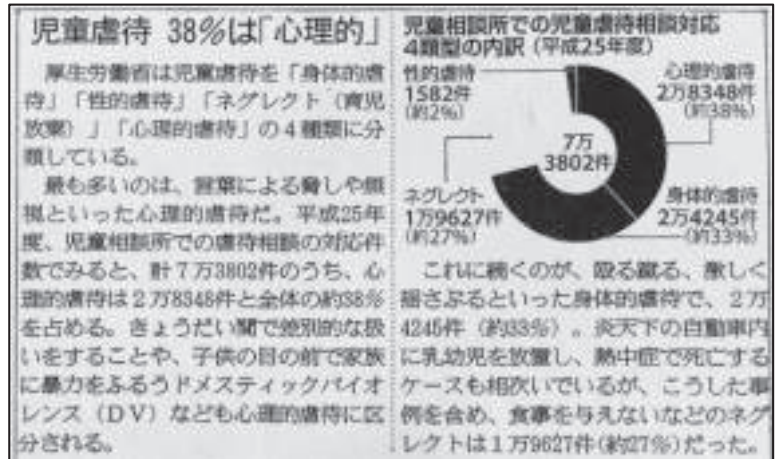


図5. 産経新聞 2015(平成27)年1月3日

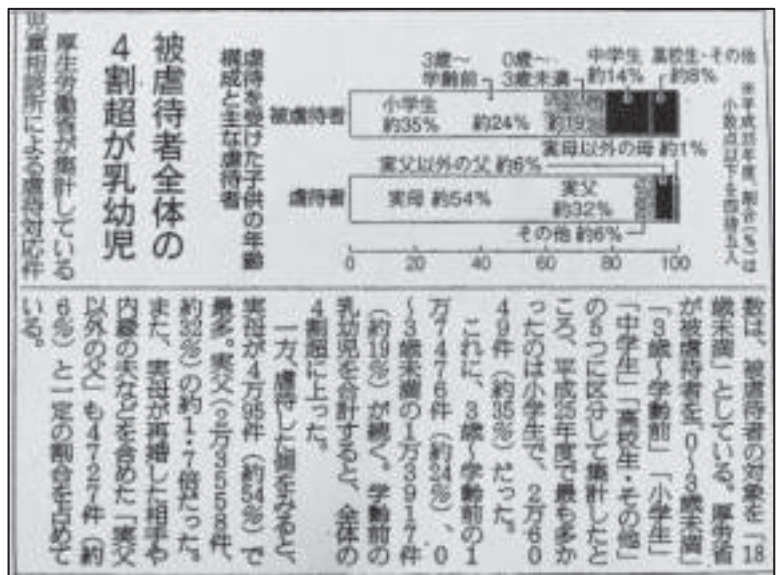


図6. 産経新聞 2015(平成27)年1月4日

## 4. 2年間をとおして

近年、保育制度や子育てをめぐる様々な課題は急激に大きく変化している。新聞にはテキストにはない最新の情報が常に掲載されているが、新聞を身近なものにとらえていない学生も多く、取り組みの最初は苦心している様子が見えた。しかし、その姿勢が大きく変化する場面が何度かあった。それは新聞記事と授業で学んでいる内容のつながりに気づいた時である。自分の学びが世の中とつながっていることを実感し、専門職としての保育者の立場を考えた上で、記事に興味をもち、積極的に取り組もうとするようになる。

NIEの取り組みは学生にも定着しつつあり、記者が入る公開授業を楽しみにしている。今後もこの取り組みを継続していく必要があると考えている。

2015年6月30日発行

---

2014（平成26）年度

## 群馬県N I E実践報告書

編 集 群馬県N I E推進協議会事務局  
発行者 群馬県N I E推進協議会  
事務局 〒371-8666 前橋市古市町1-50-21  
上毛新聞社内  
電話 027-254-9923

---